令和8年度　全国学力・学習状況調査

―　鈴鹿市の結果概要　―



令和8年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目次

１　調査の目的　・・・・・・　１

２　調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）　・・・・・・　１

３　調査日・内容　・・・・・・　１

４　調査結果の概要
（１）　本年度の平均正答率及び正答数ごとの層分布（全国四分位）　・・・・・・　２
（２）　経年変化　・・・・・・　４

５　教科に関する調査の結果
（１）　小学校　国語　・・・・・・　９
（３）　小学校　算数　・・・・・・　１０
（３）　中学校　国語　・・・・・・　１１
（４）　中学校　数学　・・・・・・　１２
（５）　中学校　英語　・・・・・・　１３

６　各教科に関する質問調査の結果
（１）　小学校国語に関する質問調査の結果　・・・・・・　１４
（２）　小学校算数に関する質問調査の結果　・・・・・・　１５
（３）　中学校国語に関する質問調査の結果　・・・・・・　１６
（４）　中学校数学に関する質問調査の結果　・・・・・・　１７
（５）　中学校英語に関する質問調査の結果　・・・・・・　１８

７　鈴鹿市の重点取組等に関する児童生徒質問調査の結果
（１）　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況　・・・　２１
（２）　ＩＣＴを活用した学習状況　・・・・・・　２６
（３）　家庭学習に関する取組状況　・・・・・・　３１
（４）　非認知能力等に関する状況　・・・・・・　３３

１　調査の目的

１　全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることを目的として実施される。

２　市内すべての学校において、児童生徒の学力や学習状況を客観的に把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。

２　調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）

調査対象	調査（教科）／実施校数	実施児童生徒数		
		国語	算数・数学	英語
小学校６年生	２８校	１，４５３人	１，４６５人	－
中学校３年生	１０校	１，４５１人	１，４５８人	１，３７８人

※ 英語は、２日に分けて実施。両日とも受検した生徒のみ計上。

３　調査日・内容

＜調査日＞　令和８年４月２３日（木）　　※ 中学校英語は、各校指定日に実施

＜調査内容＞

・　教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則として、出題内容は、それぞれの校種・教科について、下表のとおりであった。

	国語		算数	
小学校	言葉の特徴や使い方に関する事項	4問	数と計算	8問
	情報の扱い方に関する事項	2問	図形	4問
	我が国の言語文化に関する事項	0問	測定	1問
	話すこと・聞くこと	3問	変化と関係	3問
	書くこと	2問	データの活用	4問
	読むこと	2問		

	国語		算数		英語
中学校	言葉の特徴や使い方に関する事項	5問	数と式	5問	聞くこと
	情報の扱い方に関する事項	1問	図形	4問	読むこと
	我が国の言語文化に関する事項	0問	関数	3問	話すこと[やり取り]
	話すこと・聞くこと	3問	データの活用	4問	話すこと[発表]
	書くこと	3問			書くこと
	読むこと	3問			※ 上記の領域から出題

・　生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

４　調査結果の概要

（１）平均正答率 及び 正答数ごとの層分布（全国四分位）

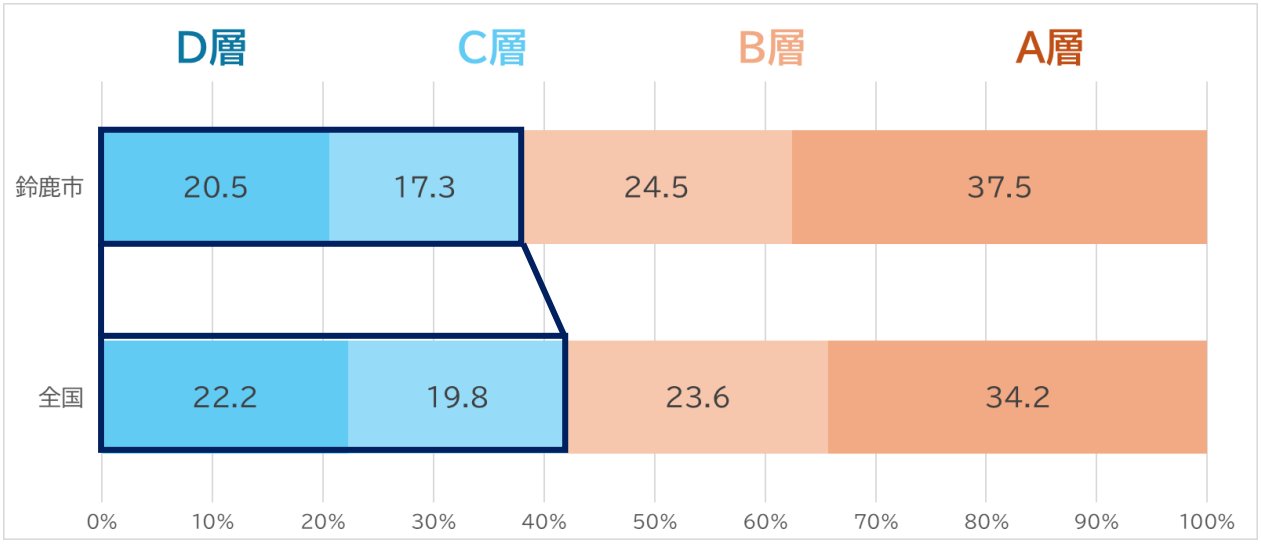
【小学校】

表１　令和８年度　平均正答率（小６）　　（%）

小６	国語	算数
鈴鹿市	６３	５６
三重県（公立）	６１	５５
全国（公立）	６０．９	５６．４

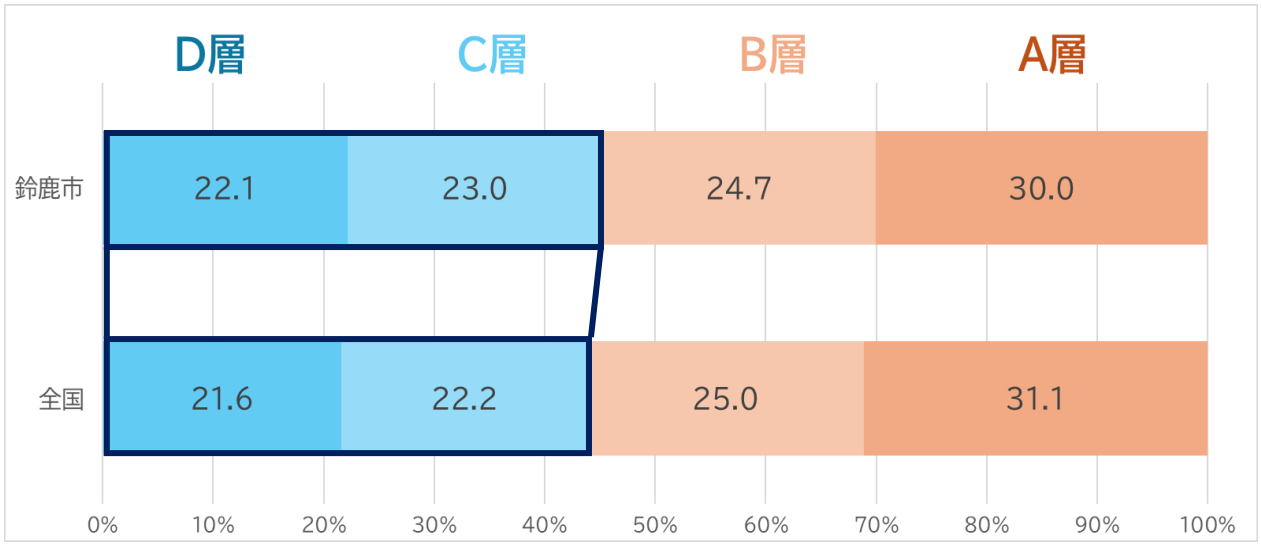
国　語

図１　【小６：国語】正答数ごとの層分布（全国四分位）



算　数

図２　【小６：算数】正答数ごとの層分布（全国四分位）



※　Ａ～Ｄ層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約 25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

【中学校】

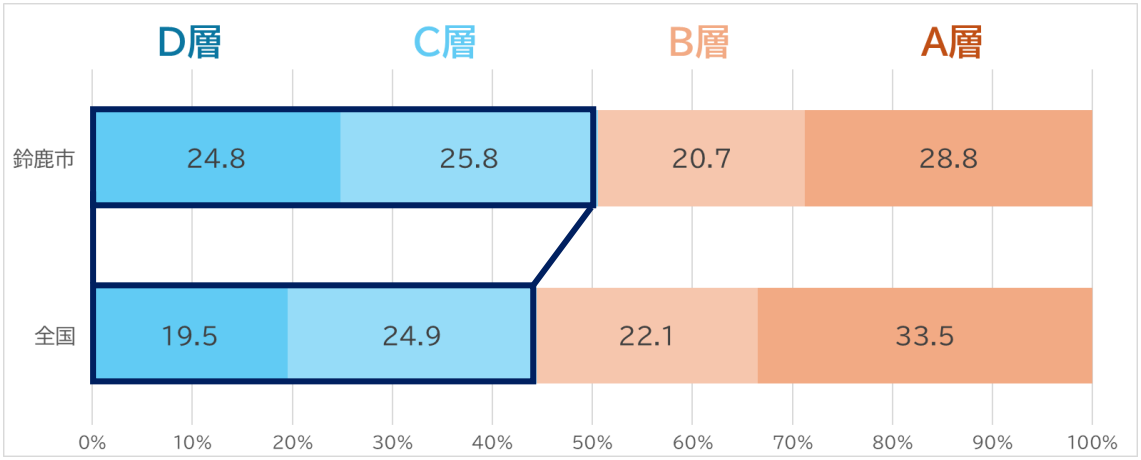
表２　令和８年度　平均正答率（中３）　（%）

中３	国語	数学	英語※
鈴鹿市	６０	５２	４８１
三重県（公立）	６２	５６	４９２
全国（公立）	６３．９	５７．０	４９９

※中学校英語については、平均 IRT スコアで表示

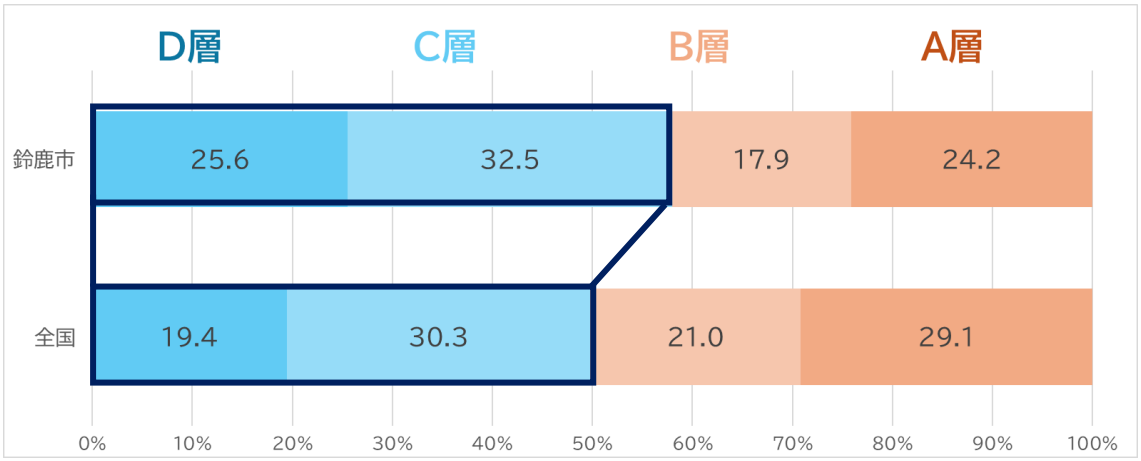
国　語

図３　【中３：国語】正答数ごとの層分布（全国四分位）



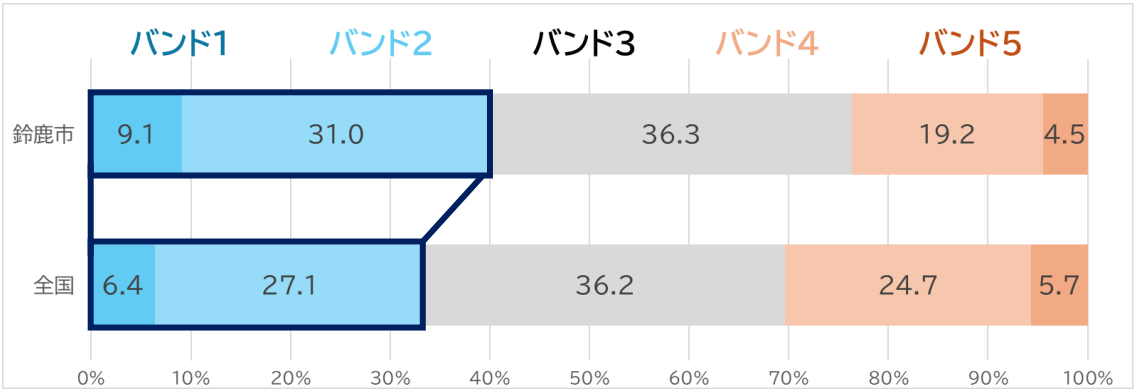
数　学

図４　【中３：数学】正答数ごとの層分布（全国四分位）



英　語

図５　【中３：英語】IRT バンド分布



（２）経年変化

【小学校：平均正答率】

・小学校は、国語で全国平均正答率を上回り、全国との差は過去最大の上げ幅となった。
・小学校は、算数で全国平均正答率を下回ったが、昨年度に比べて、全国との差は減少した。

表３　過去５か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（小６）　（%）

小学校	令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度		令和８年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	63	65.6	67	67.2	68	67.7	66	66.8	63	60.9
算数	62	63.2	62	62.5	63	63.4	57	58.0	56	56.4

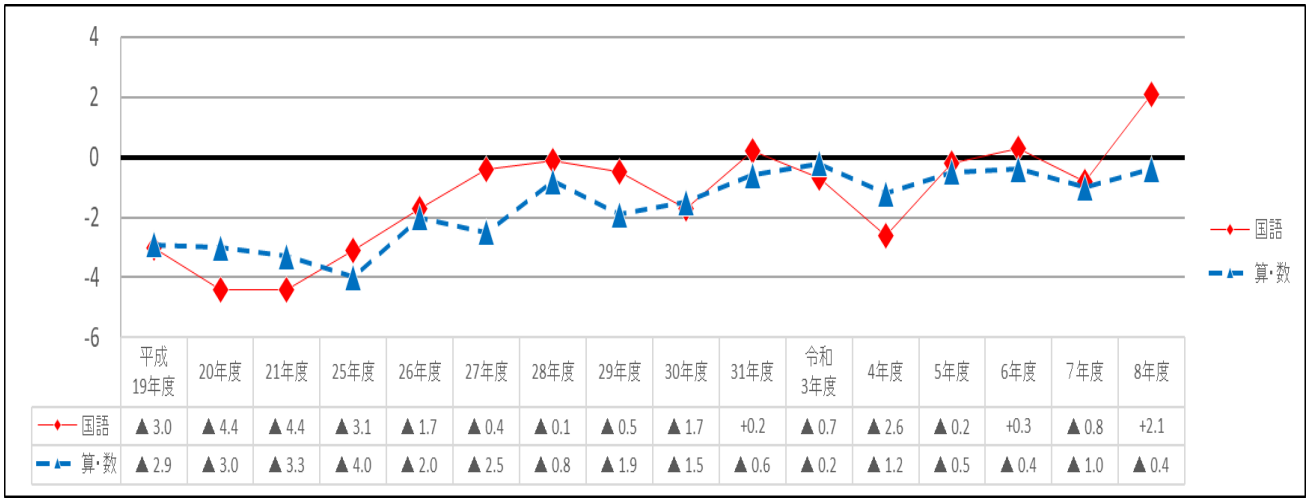
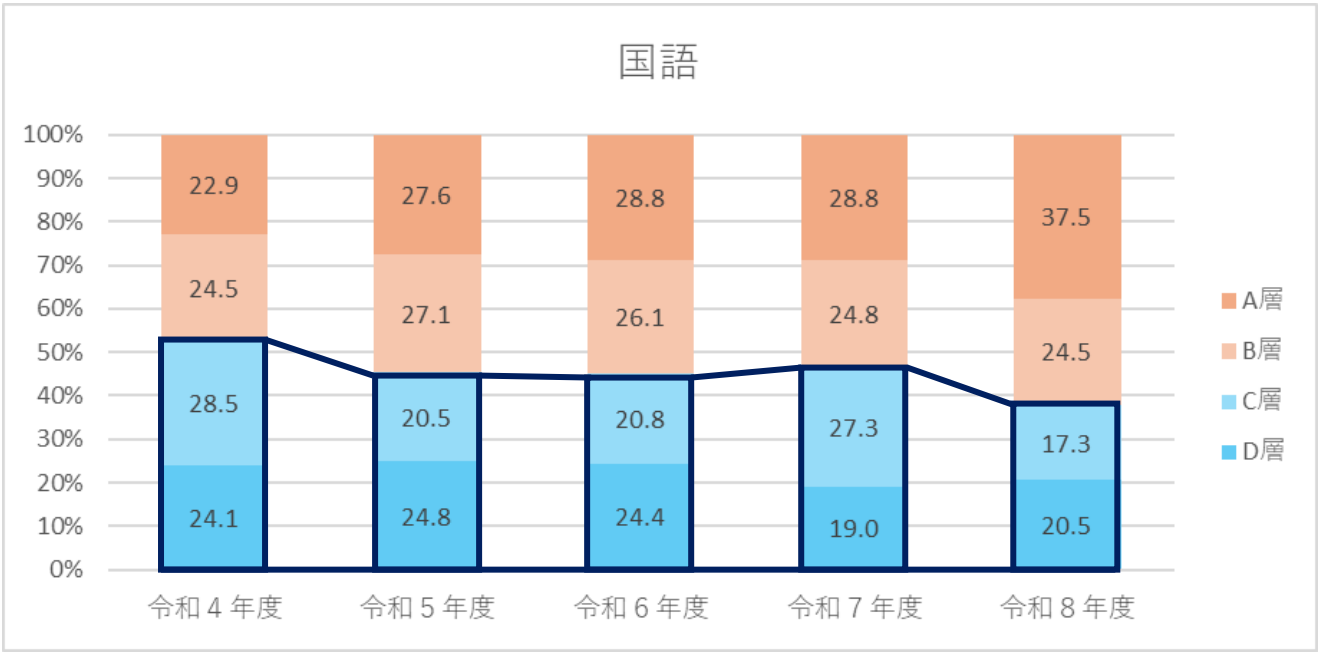


図６　鈴鹿市と全国平均正答率との差の経年変化（小６）

※平成１９年度から平成３０年度まではＢ問題の結果を反映
※平成２２年度、２４年度は抽出調査のため記載なし
※平成２３年度は、東日本大震災の影響により実施見送り
※令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

【小学校：正答数ごとの層分布（全国四分位）】

・小学校は、国語、算数ともにＣ層Ｄ層の割合が、過去５年間で最も低かった。
・小学校は、国語、算数ともにＤ層の割合が、増加した。



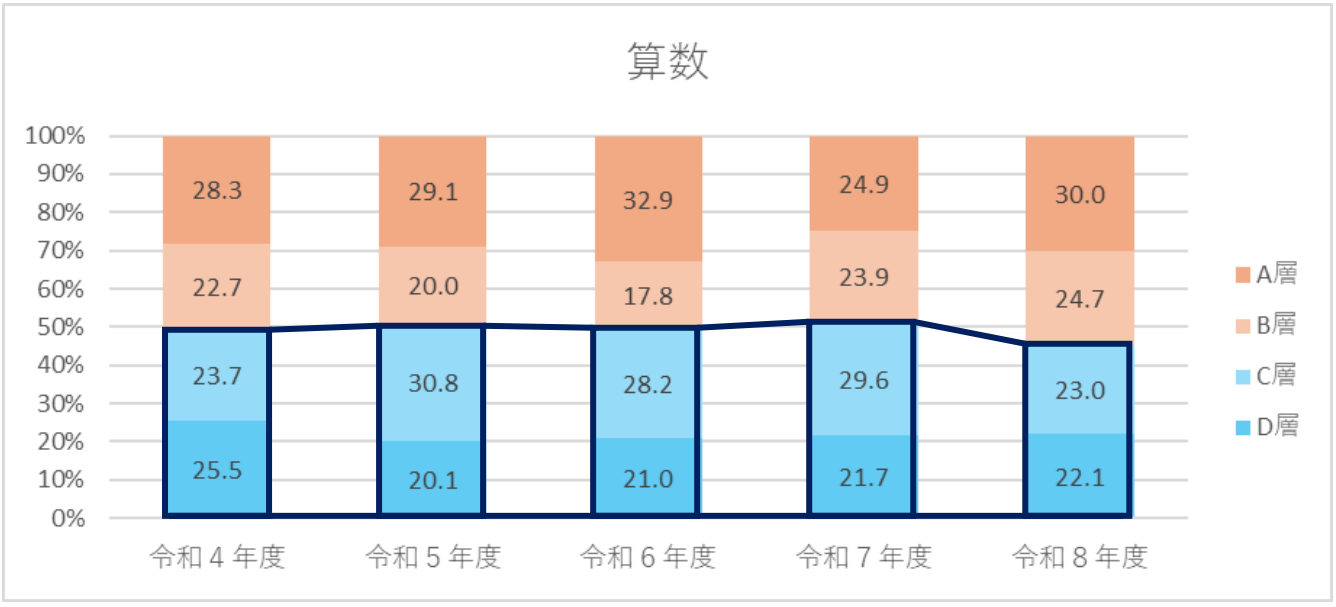


図７　鈴鹿市の正答数ごとの層分布（全国四分位）　経年変化（小６）

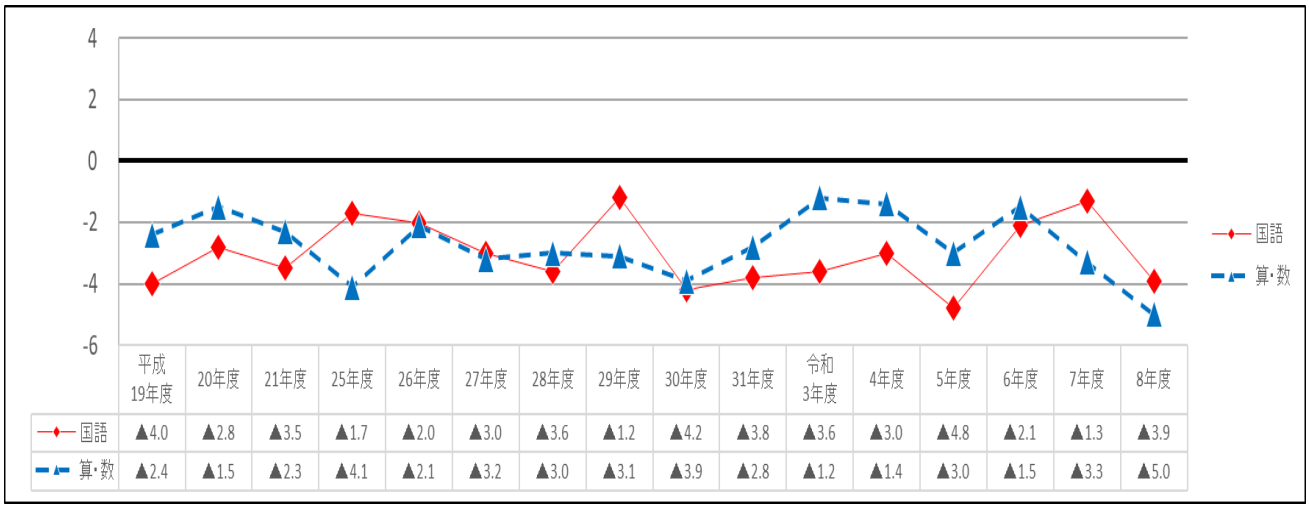
【中学校：平均正答率】

・中学校は、すべての教科で全国平均正答率を下回り、特に数学では、全国との差が過去最大となった。
・中学校英語は、初めて IRT 方式で実施され、平均 IRT スコアが全国平均を下回った。

表５　過去５か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（中３）　（%）

中学校	令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度		令和８年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	66	69.0	65	69.8	56	58.1	53	54.3	60	63.9
数学	50	51.4	48	51.0	51	52.5	45	48.3	52	57.0
英語※	—	—	42	45.6	—	—	—	—	481	499

※令和８年度中学校英語については、平均 IRT スコアで表示



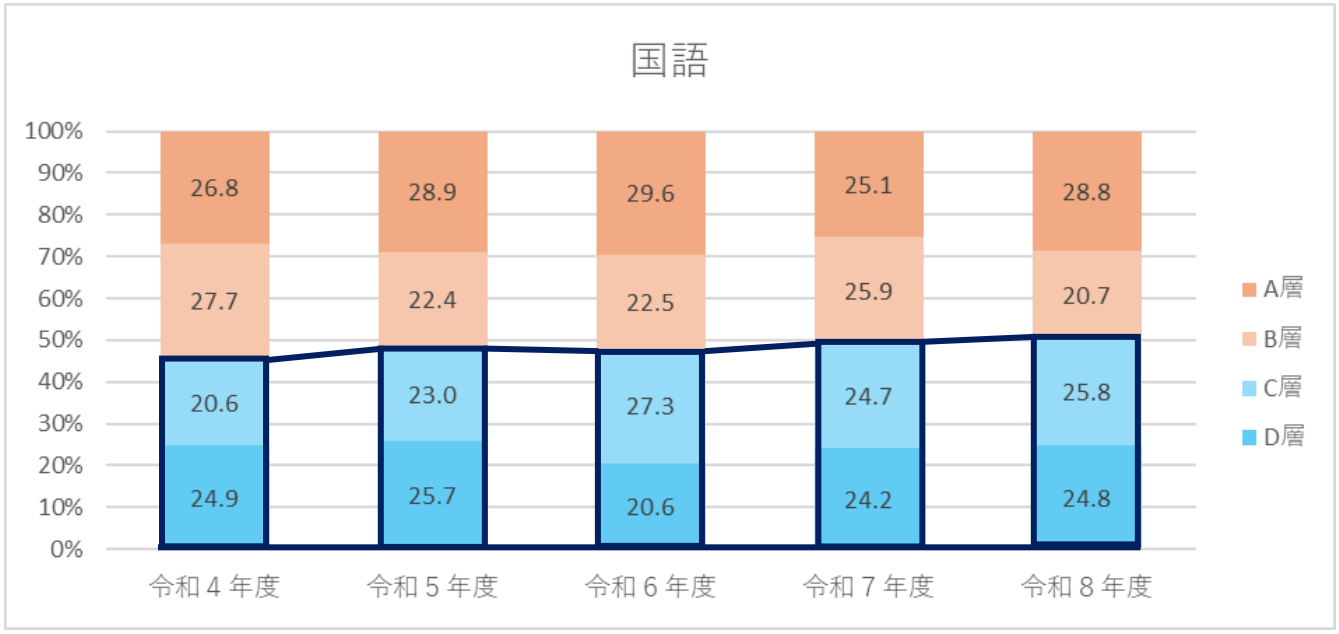
	平成19年度	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
国語	▲4.0	▲2.8	▲3.5	▲1.7	▲2.0	▲3.0	▲3.6	▲1.2	▲4.2	▲3.8	▲3.6	▲3.0	▲4.8	▲2.1	▲1.3	▲3.9
算･数	▲2.4	▲1.5	▲2.3	▲4.1	▲2.1	▲3.2	▲3.0	▲3.1	▲3.9	▲2.8	▲1.2	▲1.4	▲3.0	▲1.5	▲3.3	▲5.0

図８　鈴鹿市と全国平均正答率との差の経年変化（中３）

※平成１９年度から平成３０年度まではＢ問題の結果を反映
※平成２２年度、２４年度は抽出調査のため記載なし
※平成２３年度は、東日本大震災の影響により実施見送り
※令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

【中学校：C 層 D 層の割合】

・中学校は、国語、数学ともに C 層 D 層の割合が、過去５年間で最も高かった。
・中学校は、国語、数学ともに C 層の割合が、増加した。



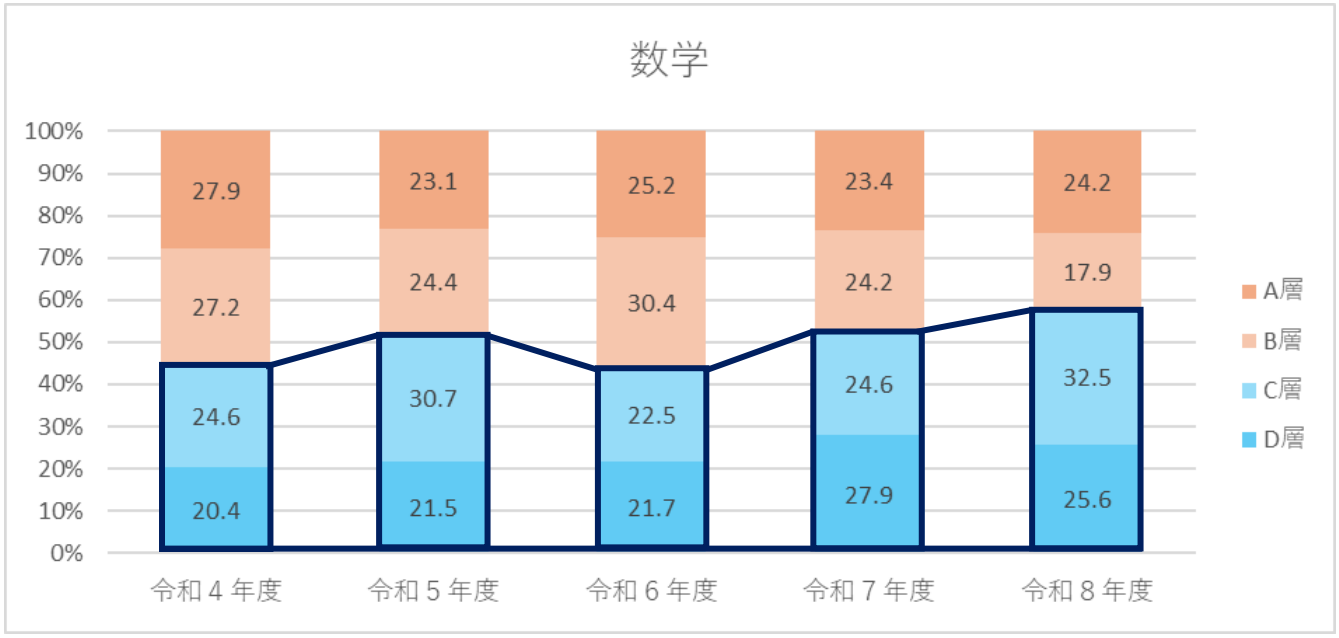
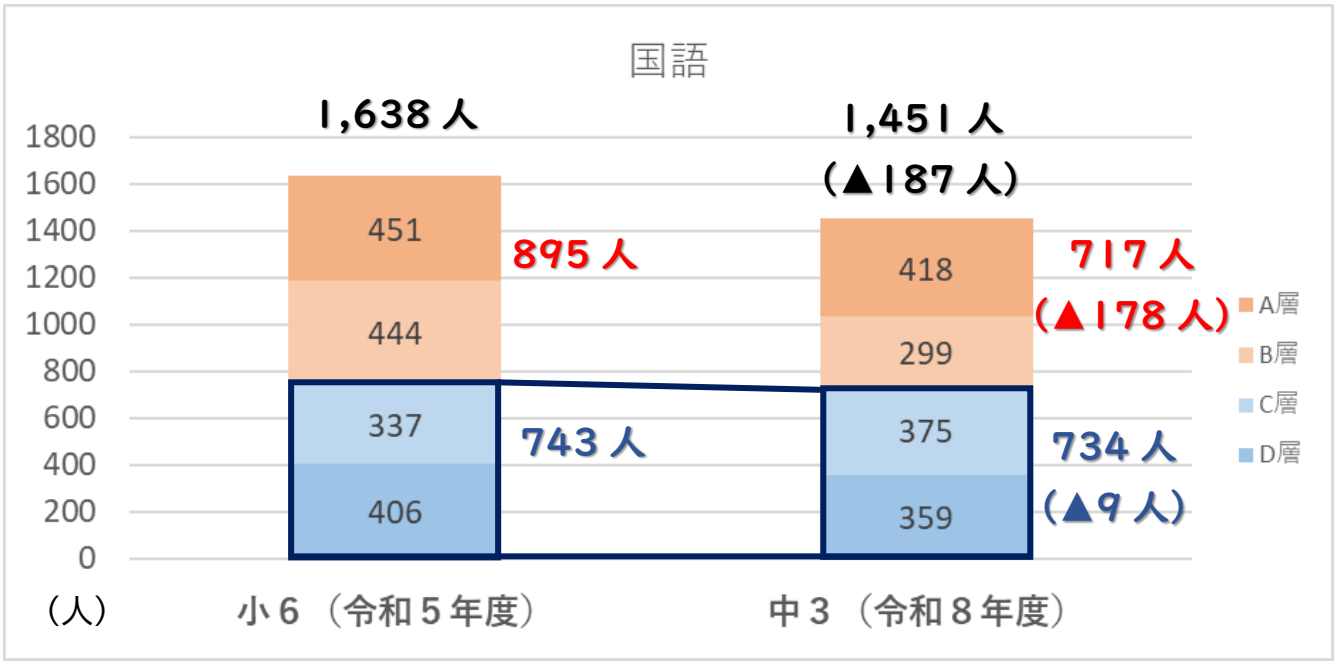


図９　鈴鹿市と全国の C 層 D 層割合の差 経年変化（中３）

【令和８年度中学３年生と令和５年度小学６年生の四分位人数比較】

令和８年度中学３年生と同一集団である令和５年度小学６年生について、各教科の A～D 層の人数を比較した。

・A 層 B 層の人数について、国語は 178 名、算数・数学は 190 名減少した。
・C 層 D 層の人数について、国語は 9 名減少し、算数・数学は 9 名増加した。



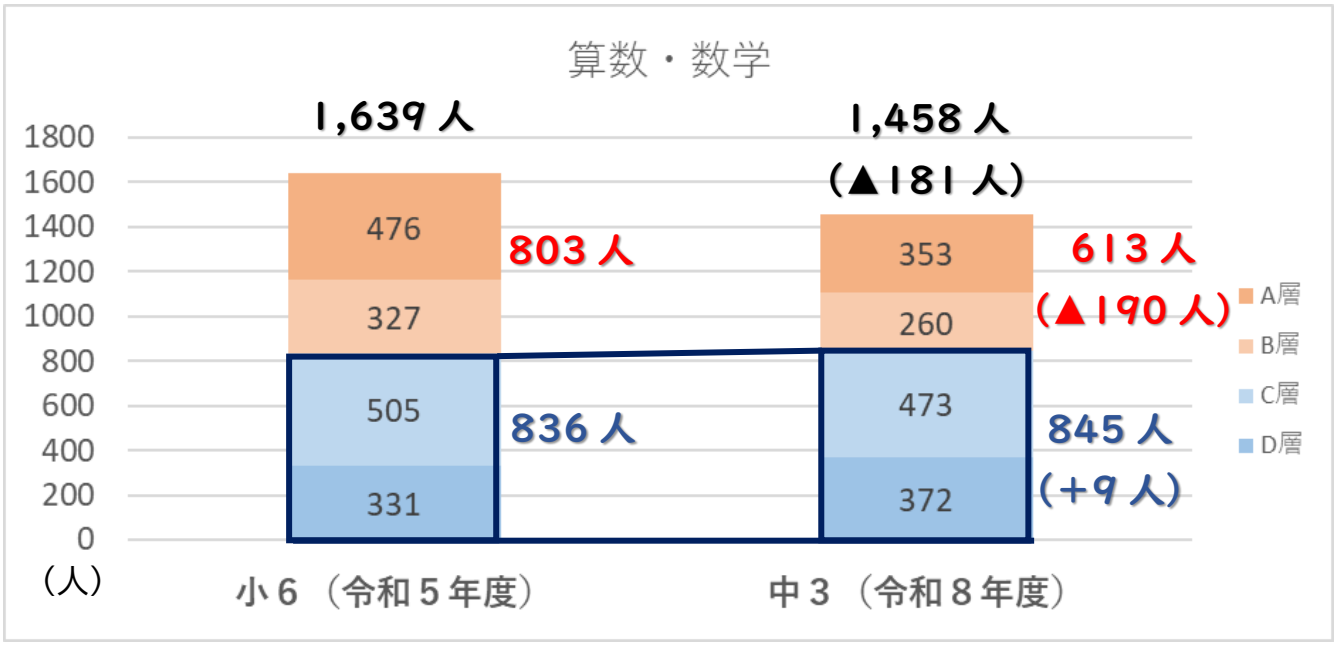


図１０　令和８年度中学３年生と令和５年度小学６年生の四分位人数比較

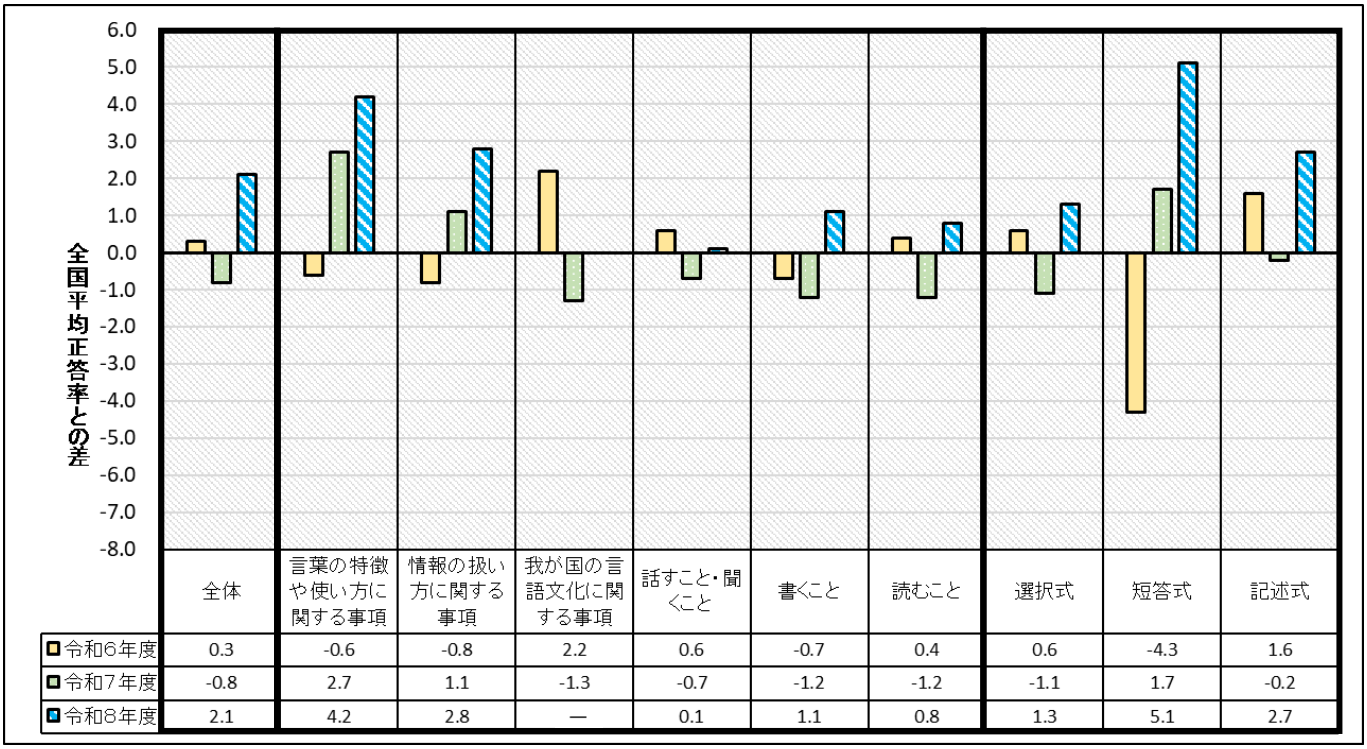
５　教科に関する調査の結果

（１）小学校　国語

【全国平均正答率との比較について】
○ 全ての領域で、全国平均正答率を上回った。
○ 全ての問題形式で、全国平均正答率を上回った。
○ 令和７年度と比較すると、領域のうち「書くこと」及び「読むこと」で、全国平均正答率との差が２ポイント以上改善した。

表７　小学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）　（%）

小学校国語		令和6年度			令和7年度			令和8年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	68	67.7	0.3	66	66.8	−0.8	63	60.9	2.1
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.8	64.4	−0.6	79.6	76.9	2.7	71.0	66.8	4.2
	情報の扱い方に関する事項	86.1	86.9	−0.8	64.2	63.1	1.1	55.1	52.3	2.8
	我が国の言語文化に関する事項	76.8	74.6	2.2	79.9	81.2	−1.3	−	−	−
	話すこと・聞くこと	60.4	59.8	0.6	65.6	66.3	−0.7	65.9	65.8	0.1
	書くこと	67.7	68.4	−0.7	68.3	69.5	−1.2	46.8	45.7	1.1
	読むこと	71.1	70.7	0.4	56.3	57.5	−1.2	66.7	65.9	0.8
問題形式	選択式	70.5	69.9	0.6	63.6	64.7	−1.1	63.2	61.9	1.3
	短答式	55.4	59.7	−4.3	80.2	78.5	1.7	67.7	62.6	5.1
	記述式	66.2	64.6	1.6	58.6	58.8	−0.2	57.6	54.9	2.7



	全体	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	選択式	短答式	記述式
令和6年度	0.3	-0.6	-0.8	2.2	0.6	-0.7	0.4	0.6	-4.3	1.6
令和7年度	-0.8	2.7	1.1	-1.3	-0.7	-1.2	-1.2	-1.1	1.7	-0.2
令和8年度	2.1	4.2	2.8	—	0.1	1.1	0.8	1.3	5.1	2.7

図１１　小学校　国語（令和６年度～令和８年度 経年変化）

（２）小学校　算数

【全国平均正答率との比較について】
○ 令和７年度と比較すると、領域のうち「数と計算」、「測定」、「変化と関係」及び「データの活用」で、全国平均正答率との差が改善した。
○ 令和７年度と比較すると、問題形式のうち「選択式」及び「記述式」で、全国平均正答率との差が改善し、特に「記述式」は全国平均正答率を上回った。
● 全ての領域で、全国平均正答率を下回った。

表８　小学校算数における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）　（%）

小学校算数		令和6年度			令和7年度			令和8年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	63	63.4	−0.4	57	58.0	−1.0	56	56.4	−0.4
学習指導要領の領域等	数と計算	65.4	66.0	−0.6	60.8	62.3	−1.5	60.5	61.1	−0.6
	図形	66.5	66.3	0.2	55.5	56.2	−0.7	54.3	55.3	−1.0
	測定	–	–	–	52.2	54.8	−2.6	76.5	78.1	−1.6
	変化と関係	50.5	51.7	−1.2	54.5	57.5	−3.0	40.0	41.1	−1.1
	データの活用	60.8	61.8	−1.0	62.0	62.6	−0.6	48.4	48.6	−0.2
問題形式	選択式	74.8	75.3	−0.5	65.4	67.2	−1.8	55.8	56.0	−0.2
	短答式	60.8	62.0	−1.2	63.5	64.0	−0.5	58.8	59.7	−0.9
	記述式	51.3	51.0	0.3	34.8	34.9	−0.1	48.8	48.5	0.3

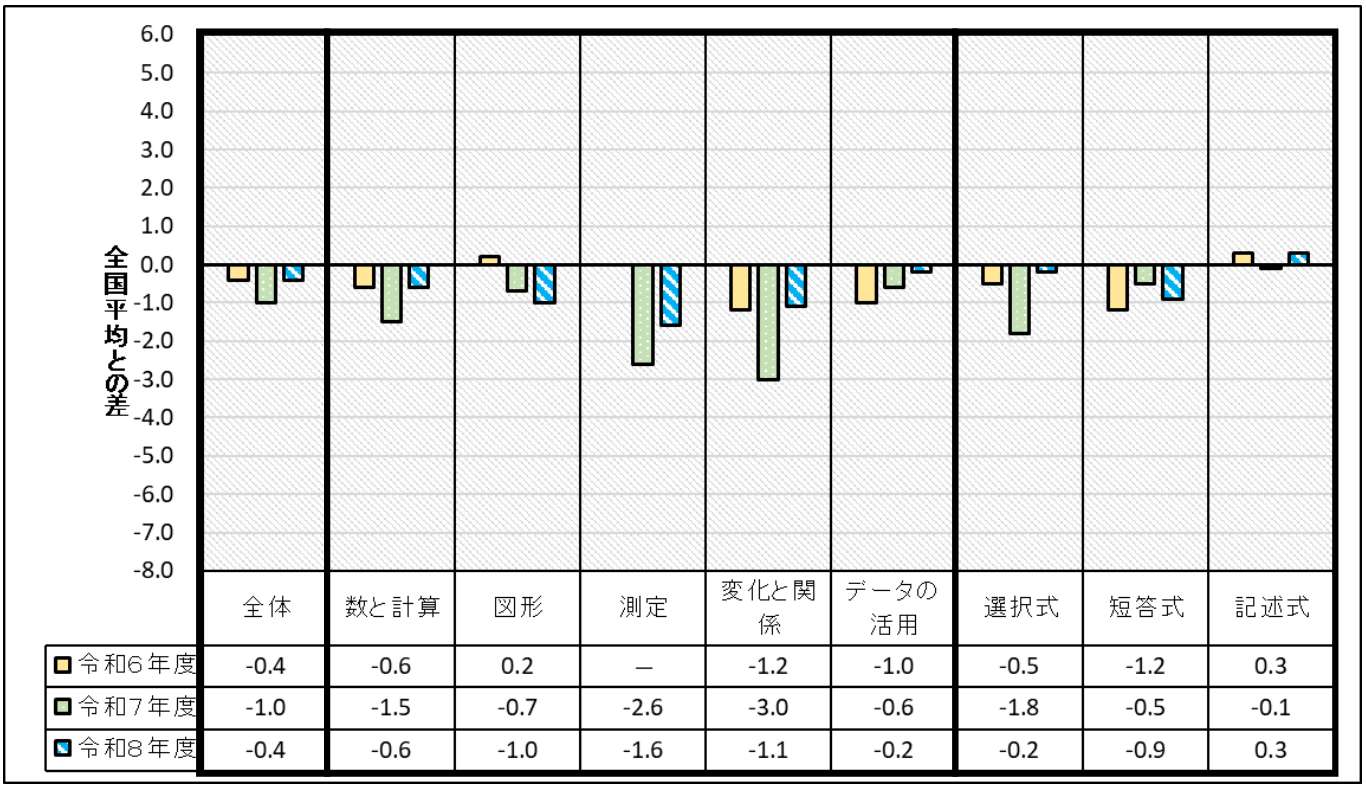


図１２　小学校　算数（令和６年度～令和８年度 経年変化）

（３）中学校　国語

【全国平均正答率との比較について】
- 全ての領域及び問題形式で、全国平均正答率との差が拡大した。
- 領域については「読むこと」、問題形式については「記述式」で、全国平均正答率との差が最も大きかった。

表９　中学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）　（%）

中学校国語		令和6年度			令和7年度			令和8年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体		56	58.1	−2.1	53	54.3	−1.3	60	63.9	−3.9
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.7	59.2	−3.5	46.7	48.1	−1.4	60.6	63.0	−2.4
	情報の扱い方に関する事項	58.6	59.6	−1.0	−	−	−	68.4	70.4	−2.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.7	75.6	1.1	−	−	−	−	−	−
	話すこと・聞くこと	58.7	58.8	−0.1	54.0	53.2	0.8	59.9	63.9	−4.0
	書くこと	63.0	65.3	−2.3	51.4	52.8	−1.4	63.3	67.4	−4.1
	読むこと	45.7	47.9	−2.2	60.0	62.3	−2.3	54.3	59.7	−5.4
問題形式	選択式	59.9	61.0	−1.1	62.9	63.9	−1.0	69.7	72.7	−3.0
	短答式	60.6	61.8	−1.2	70.9	73.6	−2.7	52.2	55.8	−3.6
	記述式	41.7	45.5	−3.8	25.4	25.3	0.1	39.9	45.5	−5.6

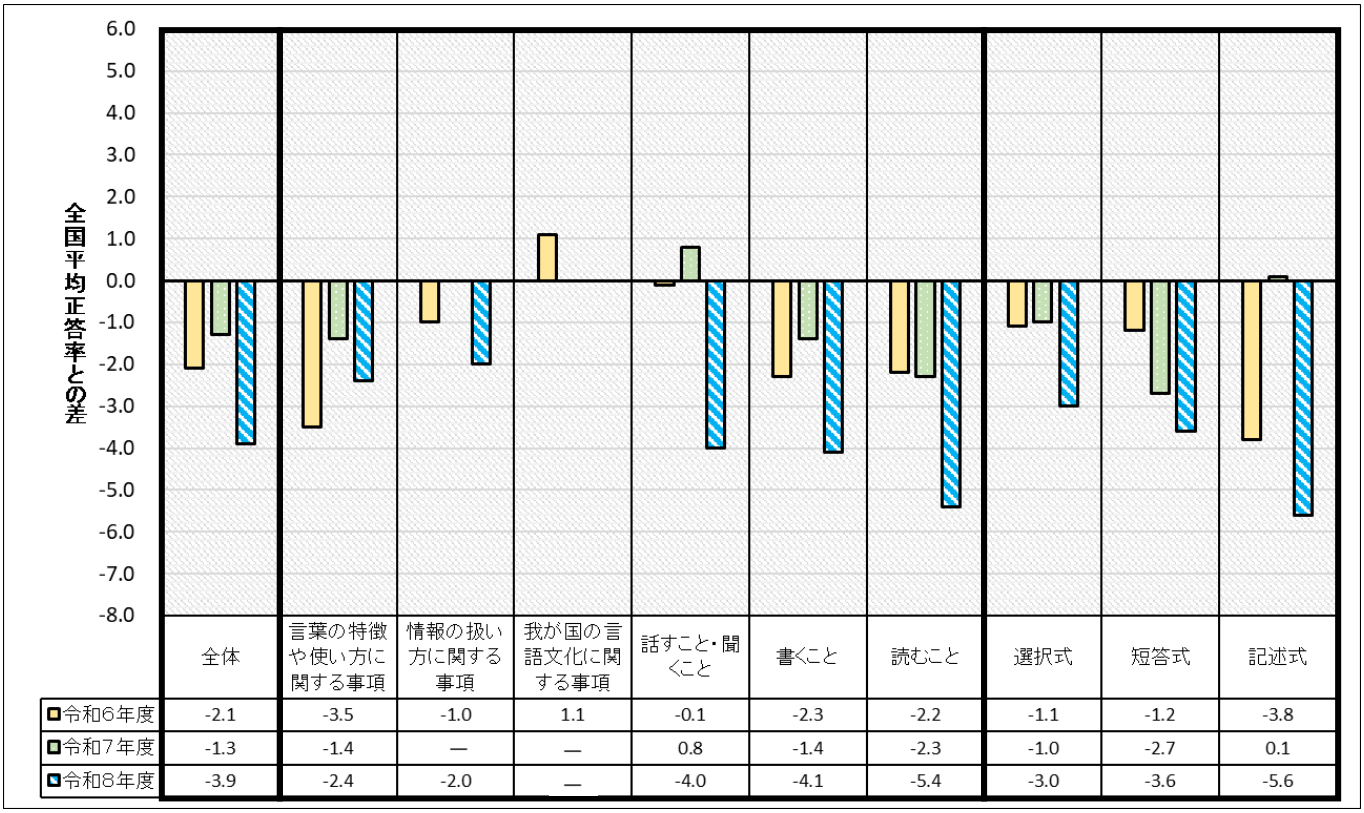


図１３　中学校　国語（令和６年度～令和８年度 経年変化）

（４）中学校　数学

【全国平均正答率との比較について】
- 全ての領域及び問題形式で、全国平均正答率との差が拡大した。
- 領域については「図形」、問題形式については「短答式」及び「記述式」で、全国平均正答率との差が最も大きかった。

表１０　中学校数学における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）　（%）

中学校数学		令和6年度			令和7年度			令和8年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	51	52.5	−1.5	45	48.3	−3.3	52	57.0	−5.0
学習指導要領の領域等	数と式	48.4	51.1	−2.7	39.2	43.5	−4.3	61.9	67.8	−5.9
	図形	36.1	40.3	−4.2	42.8	46.5	−3.7	41.2	48.7	−7.5
	関数	58.9	60.7	−1.8	45.3	48.2	−2.9	51.6	54.8	−3.2
	データの活用	59.2	55.5	3.7	55.1	58.6	−3.5	48.9	53.5	−4.6
問題形式	選択式	58.1	58.5	−0.4	49.1	54.0	−4.9	54.3	59.3	−5.0
	短答式	65.3	67.0	−1.7	48.8	52.0	−3.2	58.6	64.2	−5.6
	記述式	28.0	29.3	−1.3	35.9	39.6	−3.7	33.5	39.1	−5.6

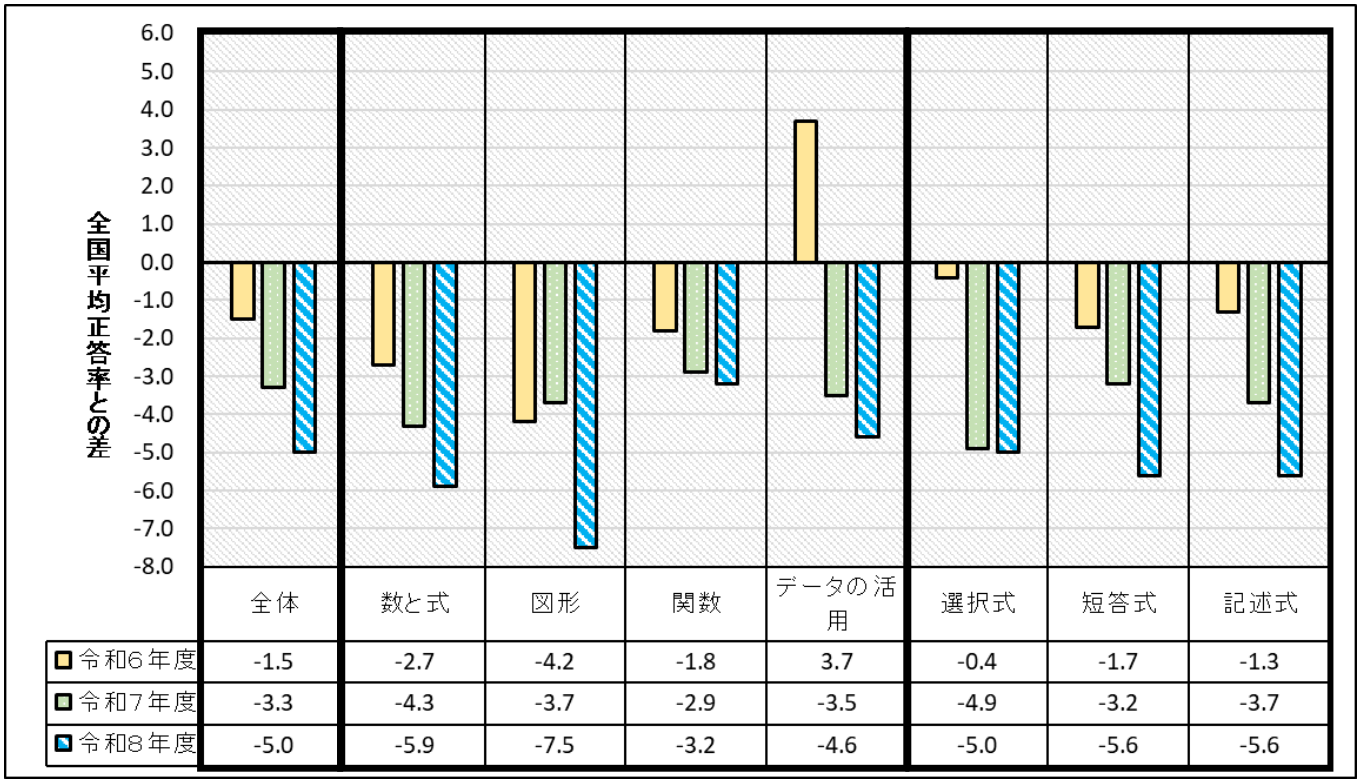


図１４　中学校　数学（令和６年度～令和８年度 経年変化）

（５）中学校　英語

【IRT スコア、IRT バンドによる比較について】
- IRT スコアについて、全国の平均 IRT スコアを下回った。
- IRT バンドについて、バンド４の割合が５．５ポイント全国を下回り、全国との差が最も大きかった。

IRT スコア

各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、５００を基準にした得点で表す。

表１１　平均 IRT スコア

鈴鹿市	全国	差
４８１	４９９	▲１８

IRT バンド

IRT スコアを１から５の５段階に区切ったもの。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドになる。

表１２　IRT バンド集計値

IRT バンド		1	2	3	4	5
割合（%）	鈴鹿市	９．１	３１．０	３６．３	１９．２	４．５
	全国	６．４	２７．１	３６．２	２４．７	５．７

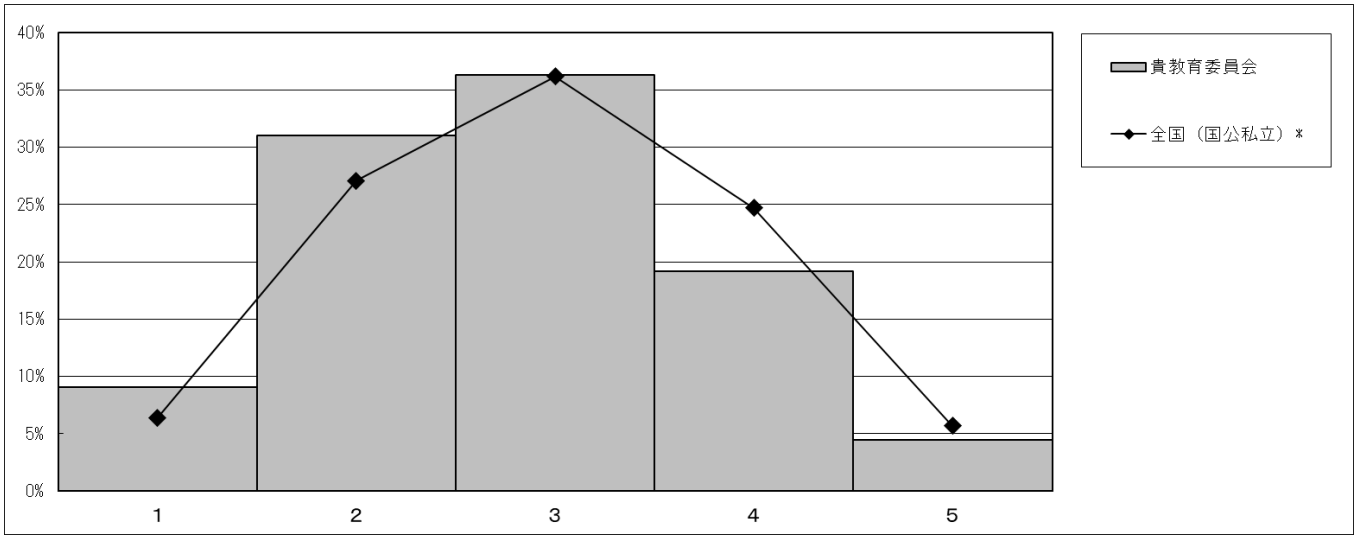


図１５　IRT バンド分布グラフ

６　各教科に関する質問調査の結果

本稿の見方

＊　質問文は、令和８年度調査を掲載している。なお、令和６年度、令和７年度とわずかに文言が異なる質問については、同質問と捉え、データを記載している。

＊　肯定的回答とは、選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（又は、それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合の合計を示す。

（１）小学校国語に関する質問調査の結果

児童質問調査

表１３　児童の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
52	国語の勉強は得意ですか	―	54.8	53.3	60.4	▲7.1
53	国語の勉強は好きですか	56.2	50.5	49.8	57.4	▲7.6
54	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.5	77.0	76.4	81.5	▲5.1
55	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.0	90.0	87.8	90.4	▲2.6
56	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	―	73.7	75.0	78.1	▲3.1
57	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか	―	71.3	72.2	75.1	▲2.9
58	国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか【新規】	―	―	78.5	80.7	▲2.2
59	国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか【新規】	―	―	74.8	78.3	▲3.5

表１４　児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
国１	解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合	80.4	82.7	80.4	79.3	+1.1

（２）小学校算数に関する質問調査の結果

児童質問調査

表１５　児童の「算数の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
60	算数の勉強は得意ですか	―	60.8	59.1	60.1	▲1.0
61	算数の勉強は好きですか	63.6	55.0	55.3	57.6	▲2.3
62	算数の授業の内容はよく分かりますか	83.6	77.2	76.3	77.5	▲1.2
63	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.5	92.1	89.6	91.0	▲1.4
64	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	―	82.9	80.8	83.2	▲2.4
65	算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか	83.3	79.5	79.9	81.7	▲1.8
66	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	―	64.3	63.8	63.0	+0.8
67	図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか【新規】	―	―	87.8	88.3	▲0.5

表１６　児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
算１	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合	80.2	74.7	77.1	77.7	▲0.6

（３）中学校国語に関する質問調査の結果

生徒質問調査

表１７　生徒の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
52	国語の勉強は得意ですか	―	56.0	51.7	51.6	+0.1
53	国語の勉強は好きですか	69.4	60.9	57.1	57.2	▲0.1
54	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.4	83.3	79.7	76.8	+2.9
55	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.3	89.5	88.0	88.2	▲0.2
56	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	―	78.9	74.8	73.0	+1.8
57	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか	―	74.8	74.4	71.8	+2.6
58	国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか【新規】	―	―	85.5	84.8	+0.7
59	国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしていましたか【新規】	―	―	76.3	76.1	+0.2

表１８　生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
国１	解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合	71.5	65.2	69.3	72.4	▲3.1

（４）中学校数学に関する質問調査の結果

生徒質問調査

表１９　生徒の「数学の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
60	数学の勉強は得意ですか	―	43.5	47.9	48.5	▲0.6
61	数学の勉強は好きですか	57.8	48.3	52.9	56.1	▲3.2
62	数学の授業の内容はよく分かりますか	78.2	69.8	72.0	74.2	▲2.2
63	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	81.4	76.5	74.5	76.5	▲2.0
64	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	―	59.9	61.7	63.0	▲1.3
65	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか	79.0	73.6	75.4	77.8	▲2.4
66	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	―	57.4	53.0	60.4	▲7.4
67	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	―	67.0	64.9	68.4	▲3.5

表２０　生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
数１	解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたがそれらの問題についてどのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合	49.2	53.9	52.6	57.6	▲5.0

（５）中学校英語に関する質問調査の結果

生徒質問調査

表２１　生徒の「英語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

R8 質問番号	質　　問	H31 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R8 鈴鹿市	R8 全国 （公立）	R8 全国 平均 との差
69	英語の勉強は得意ですか【新規】	―	―	37.0	39.5	▲2.5
70	英語の勉強は好きですか	53.8	46.3	45.9	51.2	▲5.3
71	英語の授業の内容はよく分かりますか【新規】	―	―	62.2	64.2	▲2.0
72	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	84.4	86.2	84.3	87.6	▲3.3
73	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか	39.9	33.2	31.6	34.1	▲2.5
74	キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書くことができますか【新規】	―	―	75.5	76.7	▲1.2
75	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	31.1	27.9	36.2	36.6	▲0.4
76	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか【新規】 ※「週１回以上」と回答した児童の割合	―	―	19.4	24.5	▲5.1
78	聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていましたか【新規】	―	―	83.1	85.1	▲2.0
79	聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか【新規】	―	―	80.3	82.8	▲2.5
80	キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか【新規】	―	―	61.0	61.3	▲0.3

※ 質問番号77については、（77－1）～（77－5）がランダム方式の質問項目で、データの提供がない。

7　鈴鹿市の重点取組等に関する児童生徒質問調査の結果

まとめ方に関して

○質問項目の抽出理由

鈴鹿市の重点取組に関する項目であること

※昨年度抽出した項目、学力向上分析シートで抽出した項目及び新規の項目の中で、平均正答率と一定の関係性が見られる項目

○４つの分類

（１）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問番号・・・児童生徒共通（３９）（４０）（４１）（４２）（４４）

（２）ＩＣＴを活用した学習状況

質問番号・・・児童生徒共通（３５）（３６-２）（３６-３）（３６-４）（４８）

（３）家庭学習に関する取組状況

質問番号・・・児童生徒共通（２３）（２５）

（４）非認知能力等に関する状況

質問番号・・・児童生徒共通（８）（９）（２２）

※下線は今年度新たに抽出した質問項目

※昨年度抽出したが、本年度抽出しなかった質問項目及びその理由

（１５）　学校に行くのは楽しいと思いますか

理由：平均正答率との関係性が弱いため

（３７-６）　５年生までの学習の様子を振り返り、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のこと（友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる）はあなたにどれくらい当てはまりますか

理由：ランダム形式の質問項目で、データの提供がないため

○記述による分析の視点

（１）Ｒ８鈴鹿市とＲ７鈴鹿市の比較、Ｒ８鈴鹿市とＲ８全国の比較

（２）鈴鹿市における経年変化（５年以内）が特徴的なものについて記述

（３）クロス集計の結果、平均正答率との一定の関係性について記述

本年度の結果の概要

本市の結果が全国比、前年度比ともに上回る（下回る）質問項目	↗	上回る 小（３６－３）、（３６－４）、 中（２２）、（３６－３）、（３６－４）、（３９）、（４０）	↘	下回る 小（８）、（２２）、（２３）、（２５）、（３９）、（４０）、（４１） 中（８）、（９）、（２５）、（２３）、（３６－２）、（４１）
本市の結果が前年度よりも大きく（５ポイント以上）上回る（下回る）質問項目	⇗	上回る 小（３６－３） 中（３６－３）、（３６－４）	⇘	下回る 小（２５）、（４０） 中（２５）
本市の結果が全国より大きく（５ポイント以上）上回る（下回る）質問項目	⇗	上回る 小 中（３５）	⇘	下回る 小（２５）、（４０）、（４８） 中（２３）、（２５）、（４８）
経年変化（５年以内）において本年度が最も高い（低い）質問項目	⬈	高い 小（９） 中	⬊	低い 小（２２）、（２３）、（２５）、（３９）、（４０） 中（２３）、（２５）

○強い関係性（※次頁を参照）が見られた質問項目

小（９）、（２２）（３６－２）、（３６－３）、（３６－４）、（３９）、（４０）、（４１）、（４４）、（４８）

中（９）、（８）、（２２）（３６－２）、（３６－３）、（３６－４）、（３９）、（４０）、（４１）、（４２）、（４８）

資料の見方

＜グラフの見方について＞

・上段の帯グラフは、質問項目に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本市の経年の状況を示します。

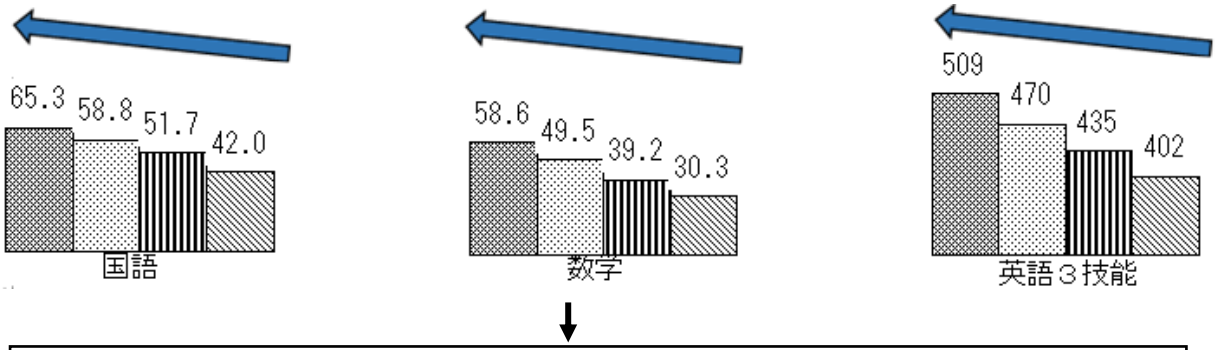
・下段の棒グラフは、質問項目に対する本市の回答別の平均正答率及び中学校英語の IRT スコア（R8 年度）を示します。

・グラフには、無回答の値を入れていないため、合計が 100%にならない場合があります。

＜記述について＞

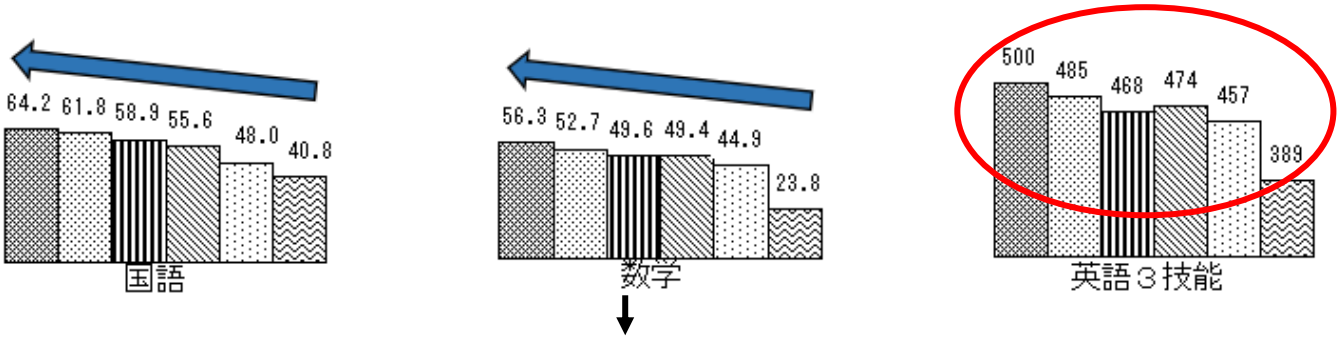
・平均正答率及び中学校英語の IRT スコア（R8 年度）と一定の関係性が見られる質問項目については、次のように記述しています。

（例１）全教科に一定の関係性が見られる（青矢印）場合（＝強い関係性が見られた質問項目）



「中学校は１、２年生のときに受けた授業が、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。」

（例２）１教科もしくは２教科には一定の関係性が見られるが、残りの教科にはある程度の関係性（隣同士の１か所のみが逆転している）が見られる場合

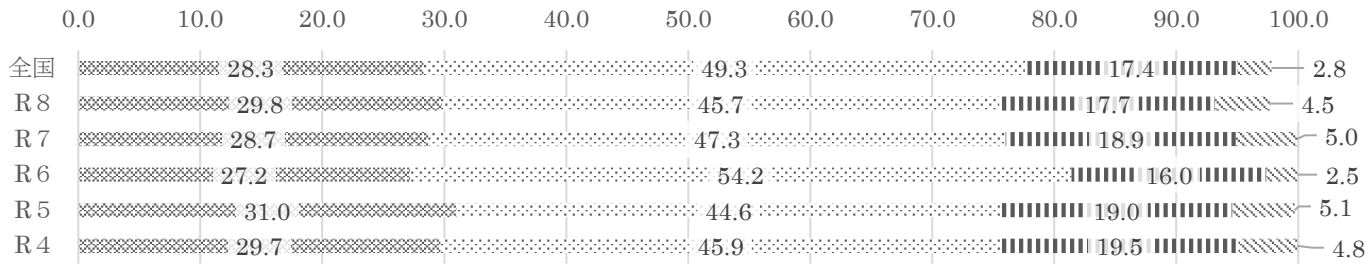


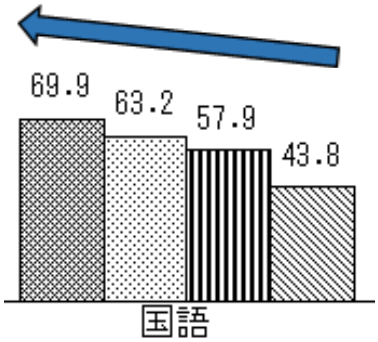
*「小中学校ともに、自分にはよいところがあると思っている児童生徒ほど、**概ね**教科の平均正答率が高い傾向にある。」*

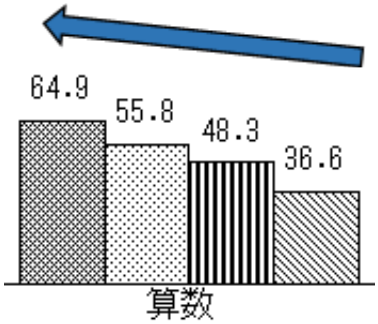
(1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【児童生徒質問調査(39)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学生 ↘ ↘

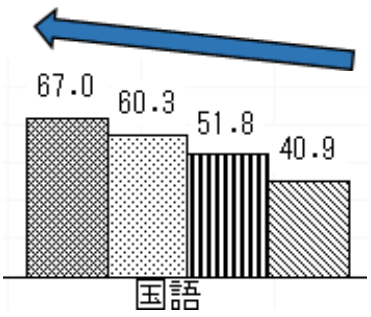


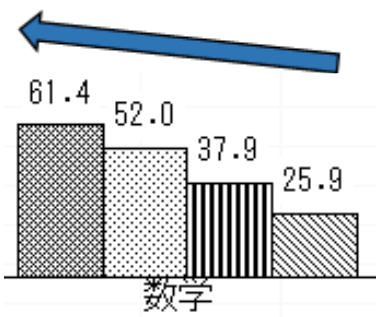


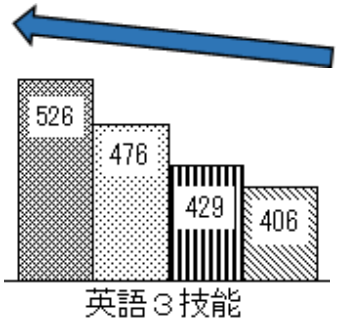


中学生 ↗







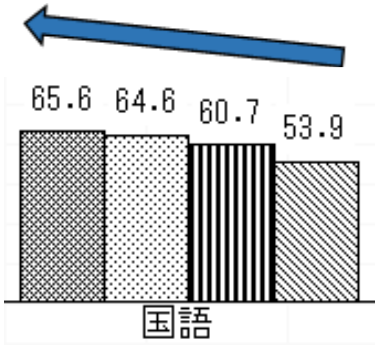


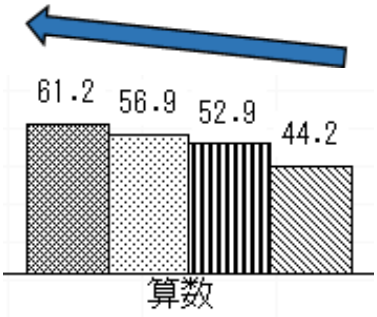
小学生は、肯定的回答割合が75.5%で R7年度の76.0%を下回り、全国の77.6%も下回っている。また、R4年度以降において最も低くなっている。中学生は、肯定的回答割合が80.6%と R7年度の79.1%を上回り、全国の78.8%も上回っている。小中学生ともに課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(40)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

小学生

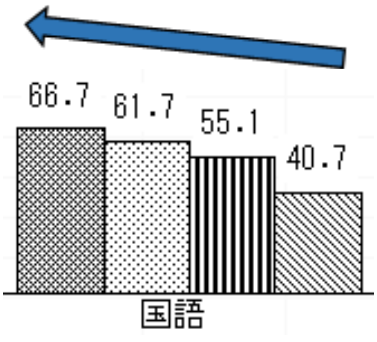


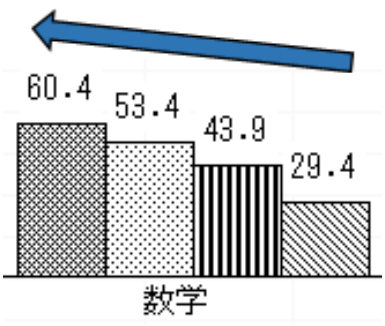


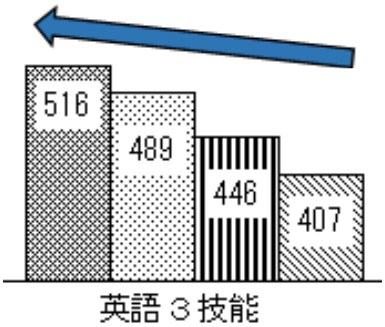


中学生







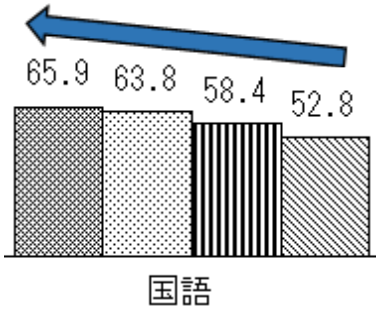


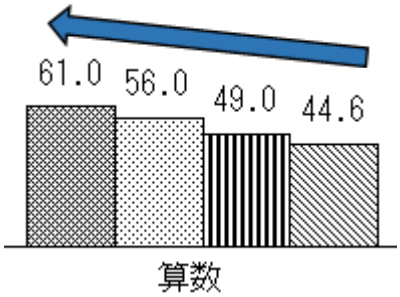
小学生は、肯定的回答割合が66.6%でR7年度の74.0%を大きく下回り、全国の73.4%も大きく下回っている。また、R4年度以降において、最も低くなっている。中学生は、肯定的回答割合が71.8%とR7年度の71.2%を上回り、全国の70.8%も上回っている。小中学生ともに各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(41)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

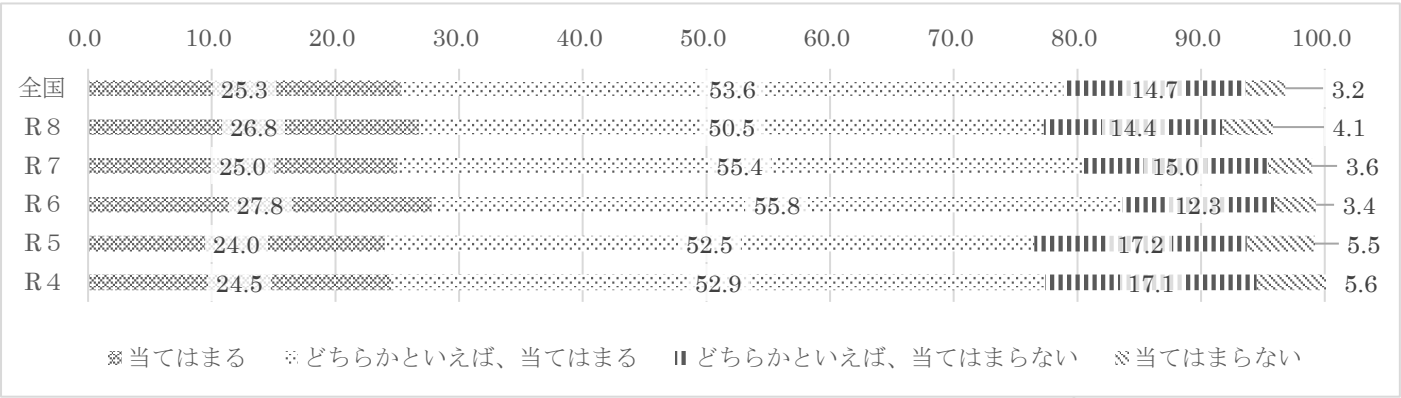
小学生

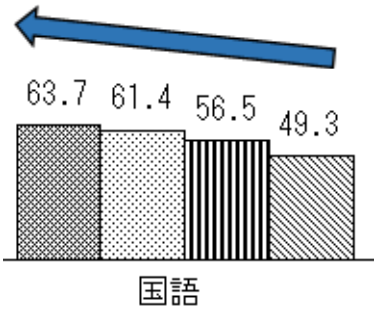


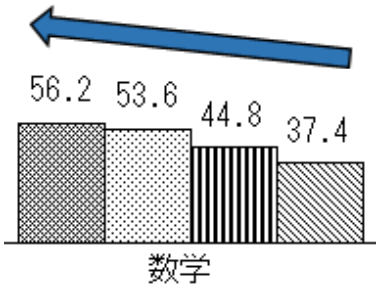


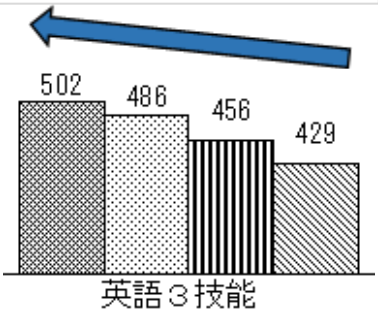


中学生





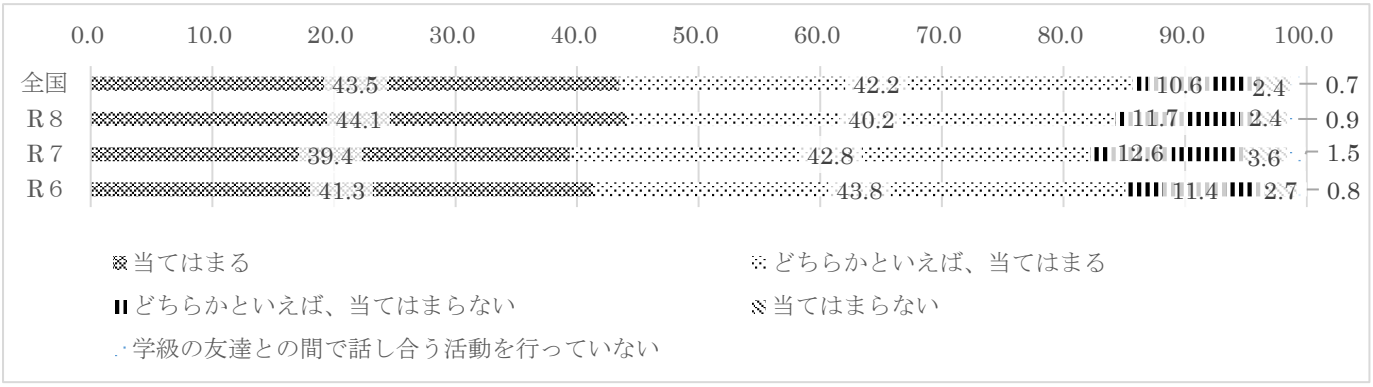


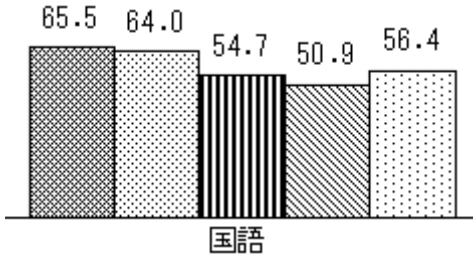


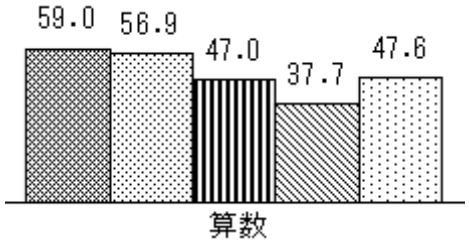
小学生は、肯定的回答割合が78.5%とR7年度の80.5%を下回り、全国の80.8%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が77.3%とR7年度の80.4%を下回り、全国の78.9%も下回っている。小中学生ともに、5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業が、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(42)】 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

小学生

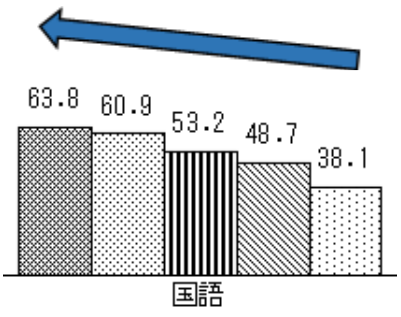


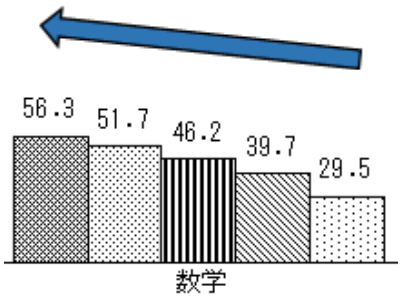


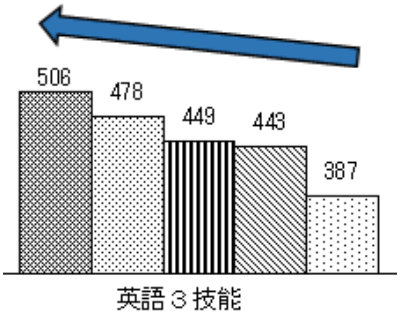


中学生







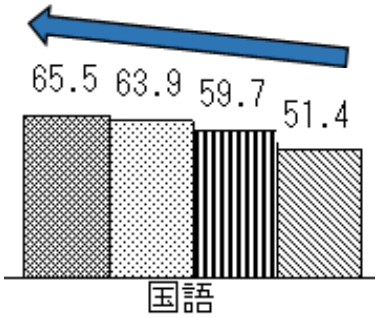


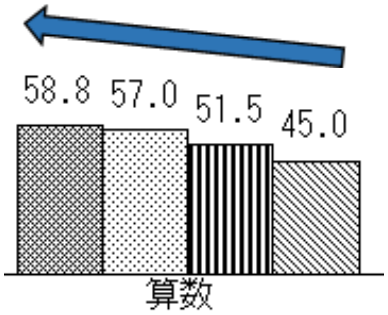
小学生は、肯定的回答割合が84.3%で、R7年度の82.2%を上回っているが、全国の85.7%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が84.4%で、R7年度の84.1%を上回っているが、全国の87.0%は下回っている。中学生は、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(44)】 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

小学生

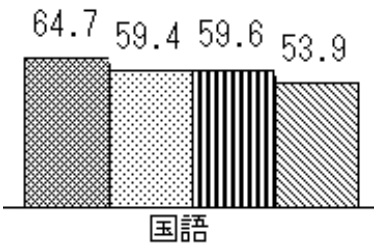


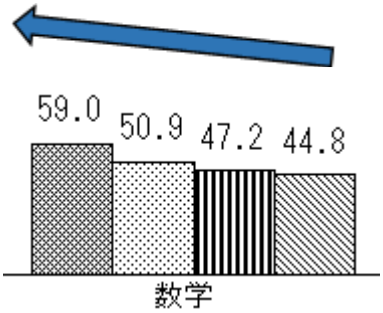


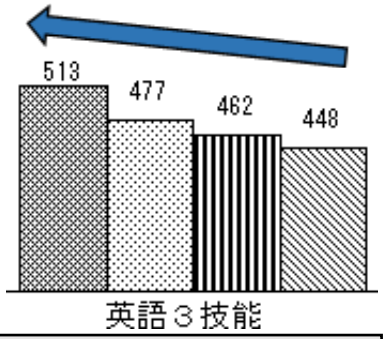


中学生







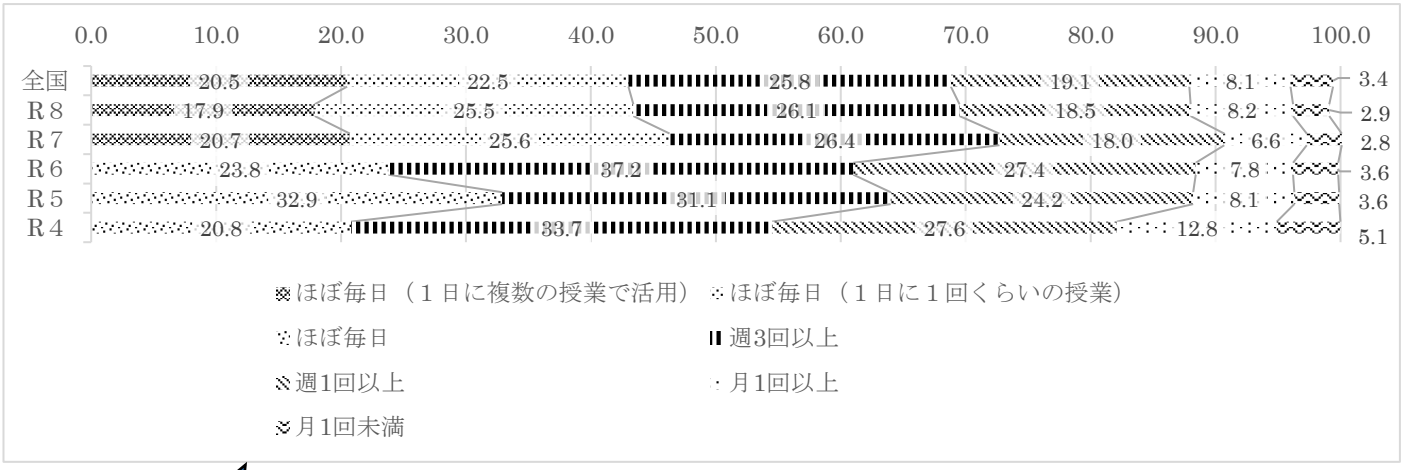


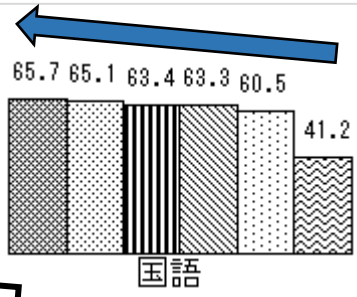
小学生は、肯定的回答割合が78.6%で、R7年度の78.1%を上回っているが、全国の80.8%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が75.6%と、R7年度の75.0%を上回っているが、全国の78.0%は下回っている。小学生は授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。中学生は、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

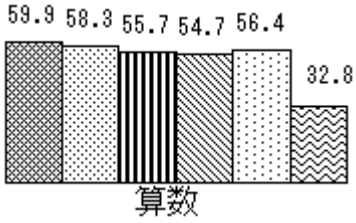
(2)ICT を活用した学習状況

【児童生徒質問調査(35)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

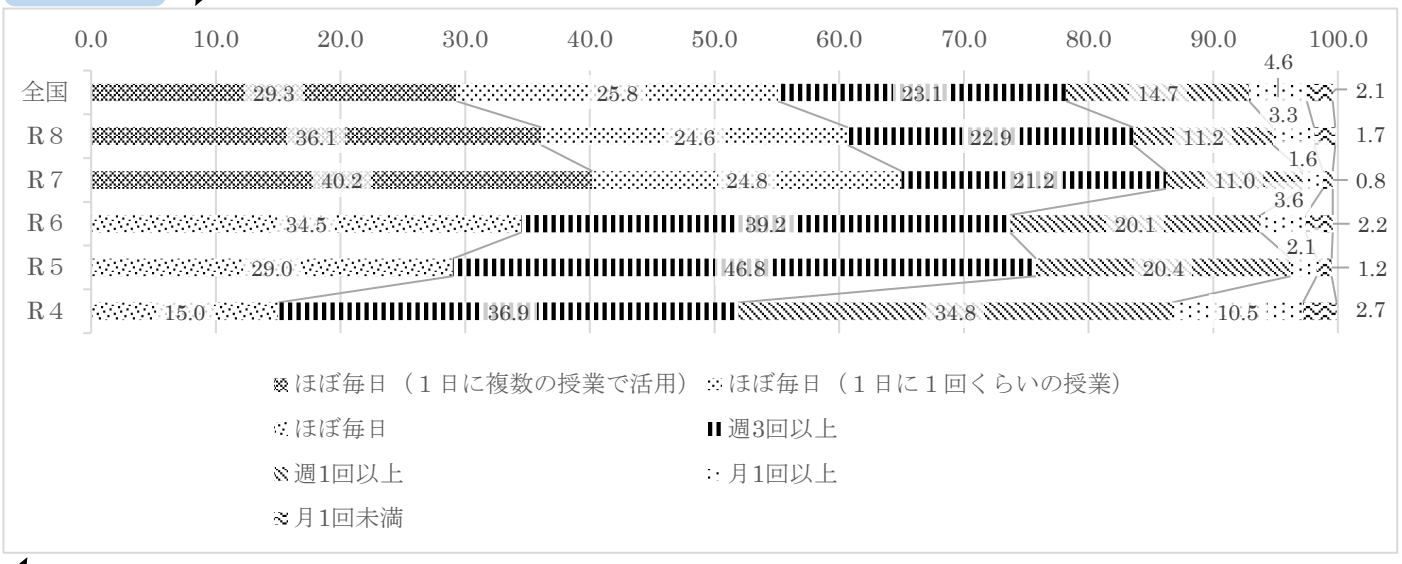
小学生

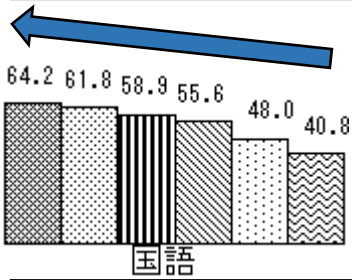


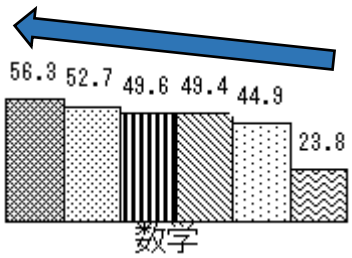


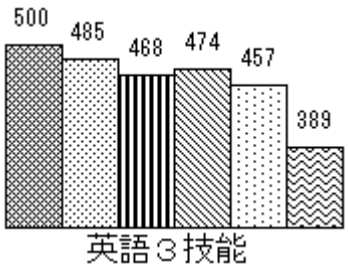


中学生





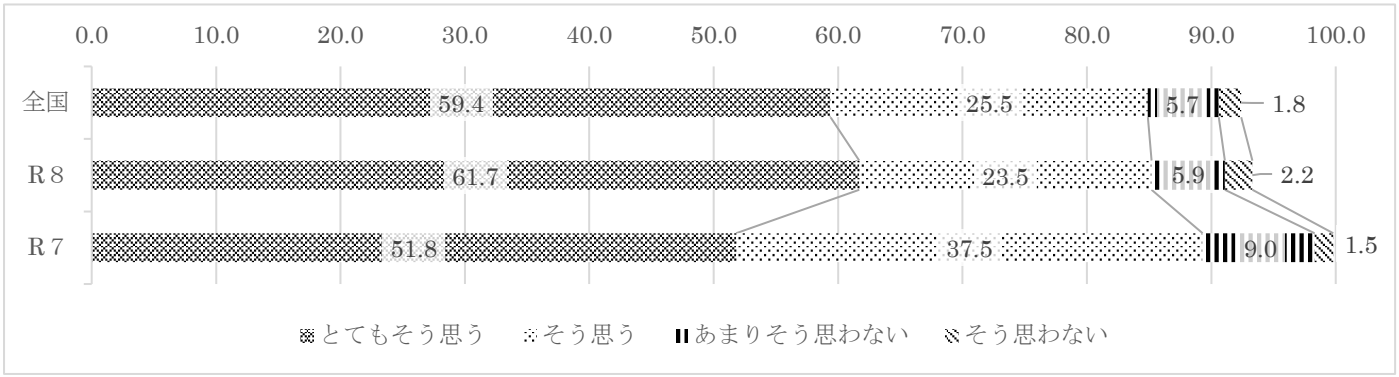


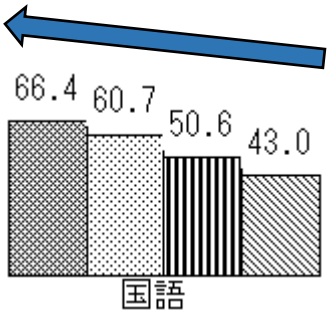


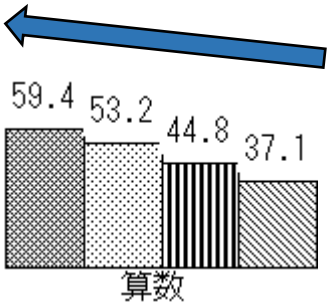
小学生は、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用及び1日に1回くらいの授業)」と回答した割合が43.4%とR7年度の46.3%を下回っているが、全国の43.0%は上回っている。中学生は、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用及び1日に1回くらいの授業)」と回答した割合が60.7%とR7年度の65.0%を下回っているが、全国の55.1%は大きく上回っている。中学生は1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用した頻度が高い生徒ほど、教科の平均正答率が概ね高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(36-2)】 あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか

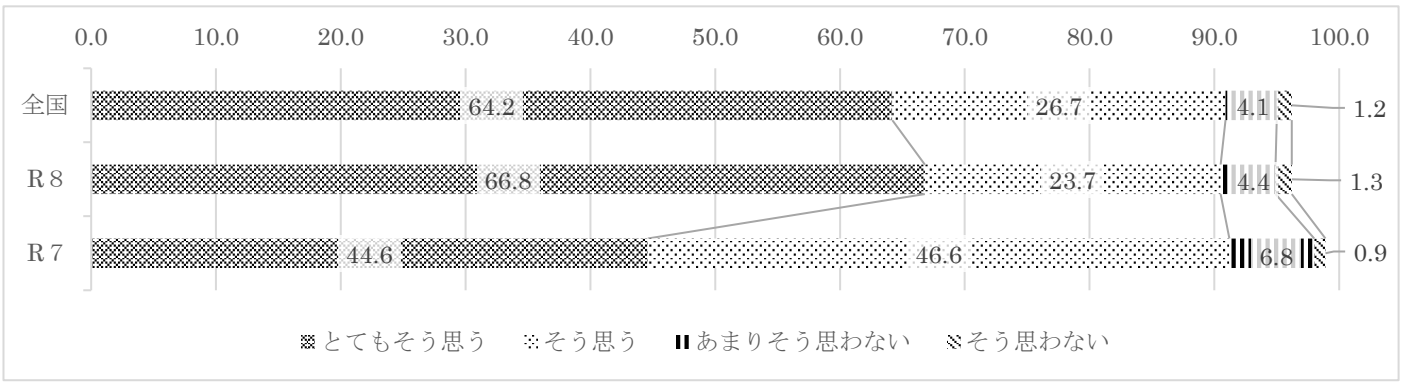
小学生

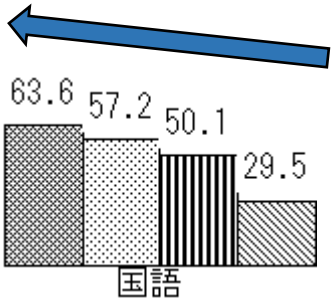


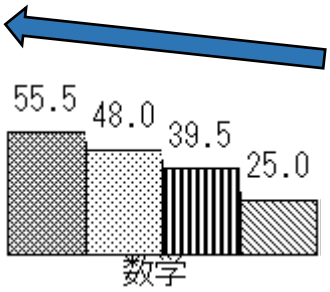


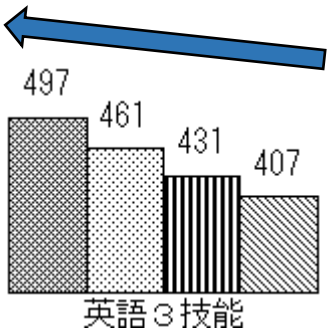


中学生





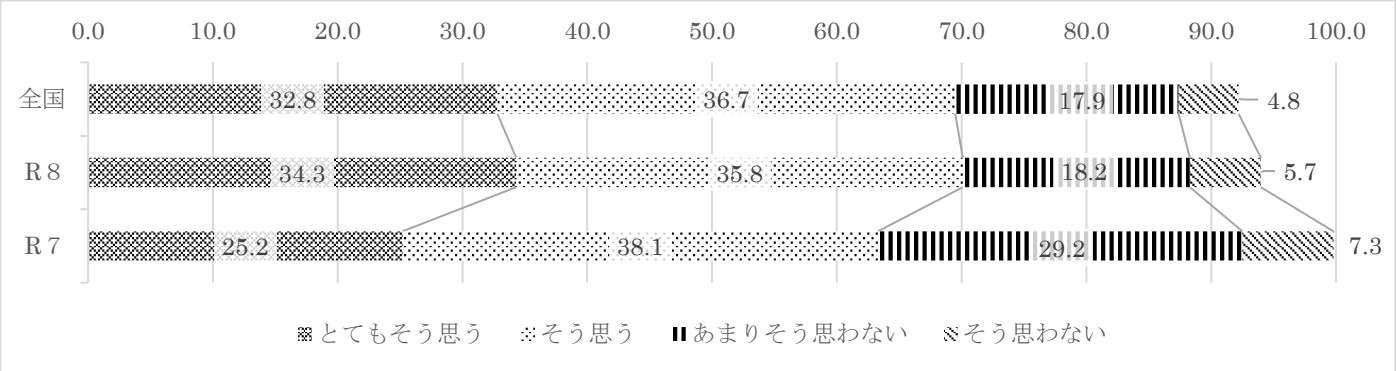


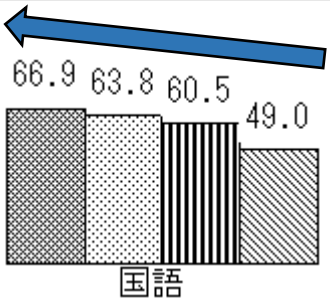


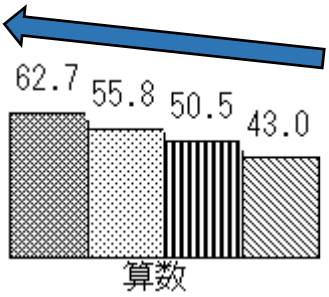
小学生は、肯定的回答割合が85.2%とR7年度の89.3%を下回っているが、全国の84.9%は上回っている。中学生は、肯定的回答割合が90.5%とR7年度の91.2%を下回り、全国の90.9%も下回っている。小中学生ともに、インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(36－3)】あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか

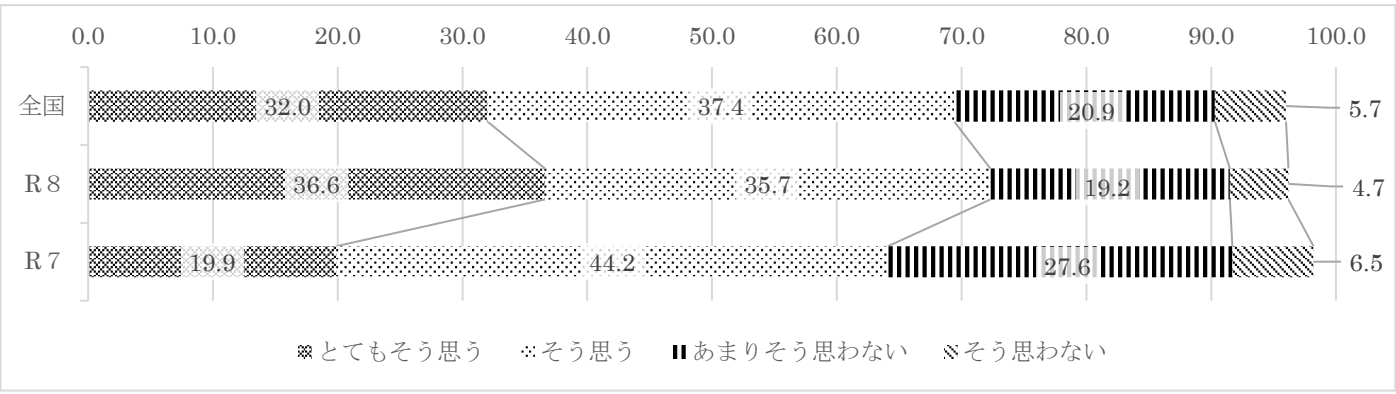
小学生

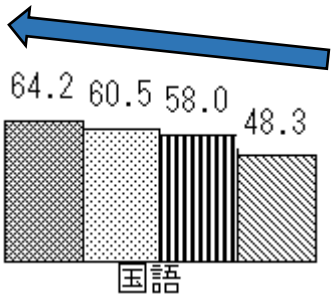


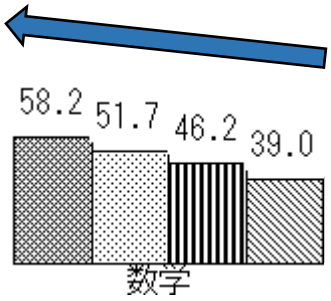


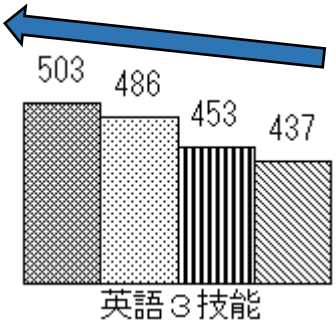


中学生





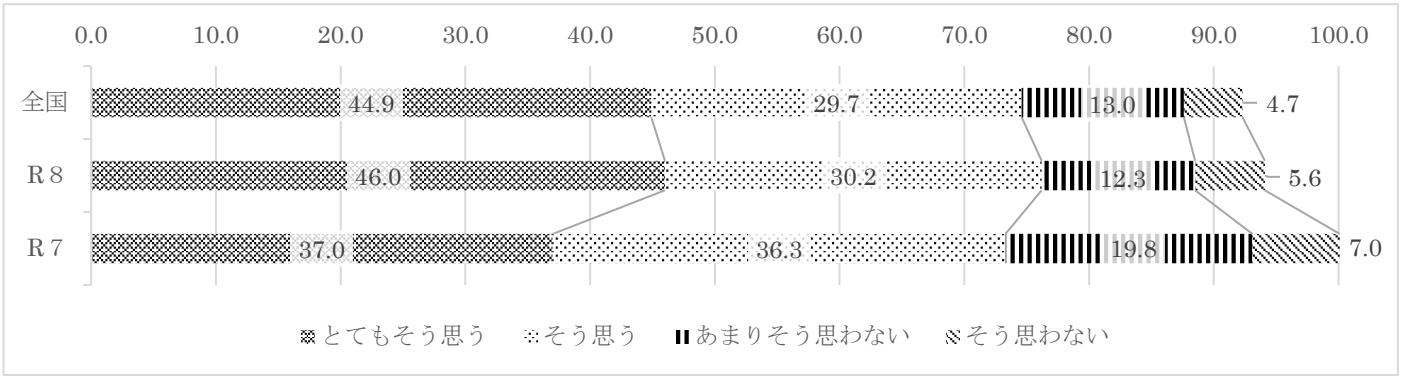


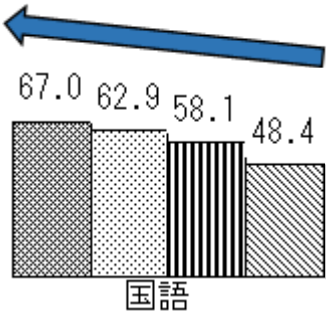


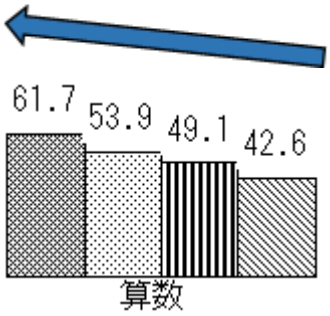
小学生は、肯定的回答割合が70.1%とR7年度の63.3%を大きく上回り、全国の69.5%も上回っている。中学生は、肯定的回答割合が72.3%とR7年度の64.1%を大きく上回り、全国の69.4%も上回っている。小中学生ともに、PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(36-4)】 あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか

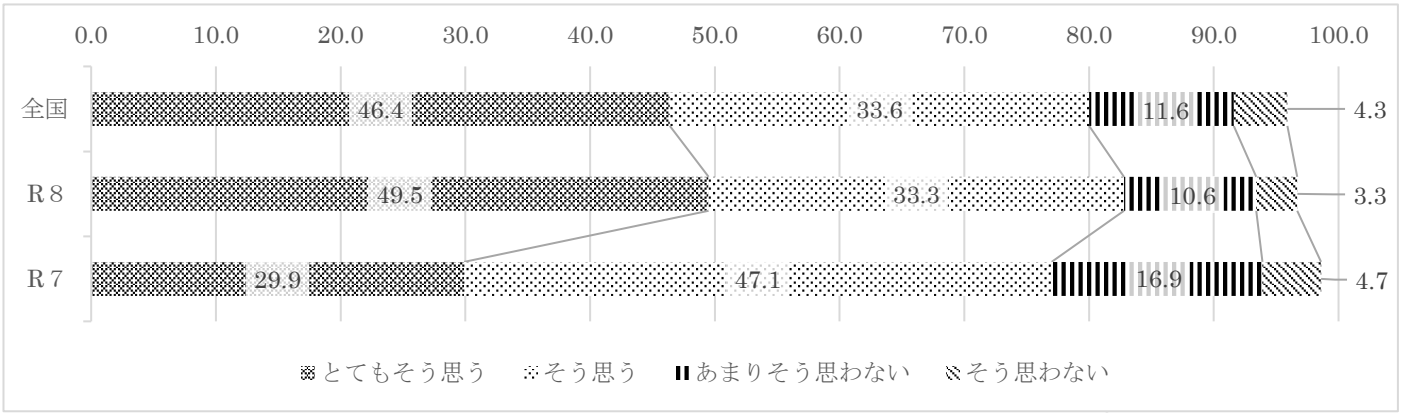
小学生 ↗

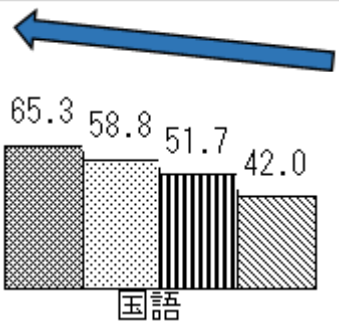


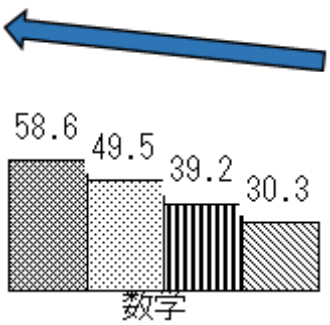


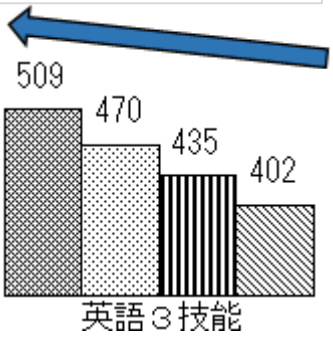


中学生 ↗⇗





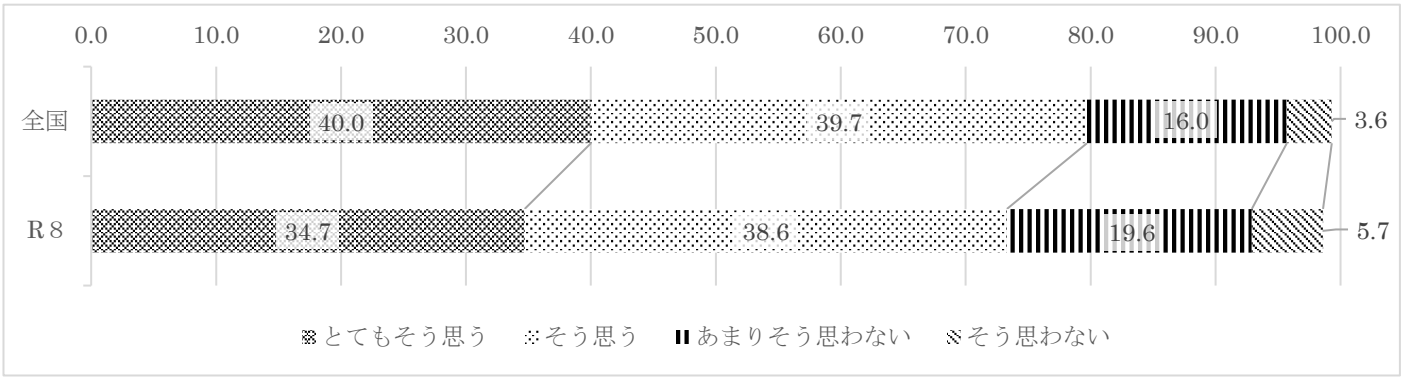


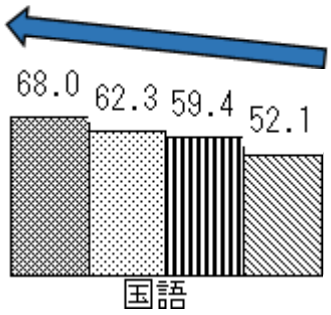


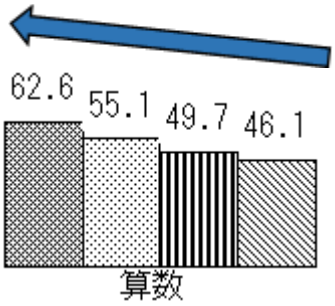
小学生は、肯定的回答割合が76.2%と R7年度の73.3%を上回り、全国の74.6%も上回っている。中学生は、肯定的回答割合が82.8%と R7年度の77.0%を大きく上回り、全国の80.0%も上回っている。小中学生ともに、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(48)】 総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使ってうまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか

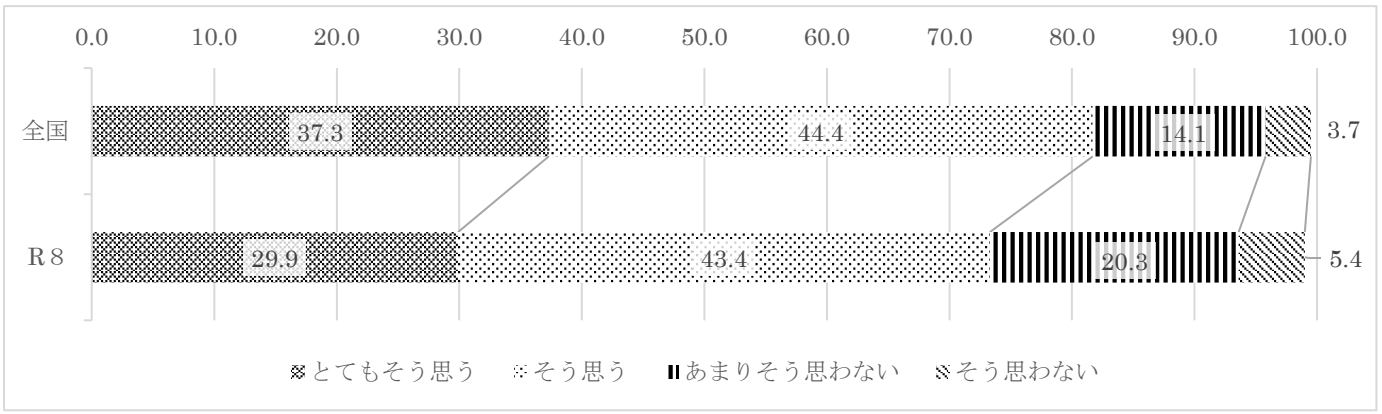
小学生

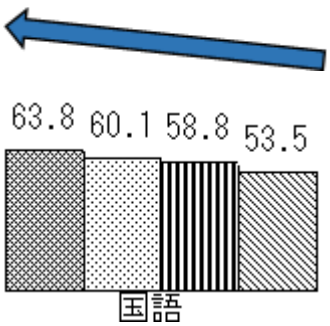


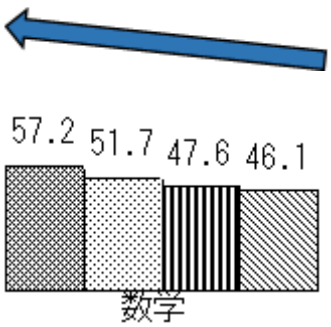


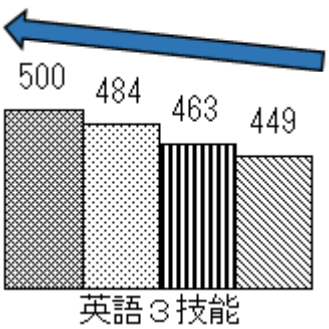


中学生







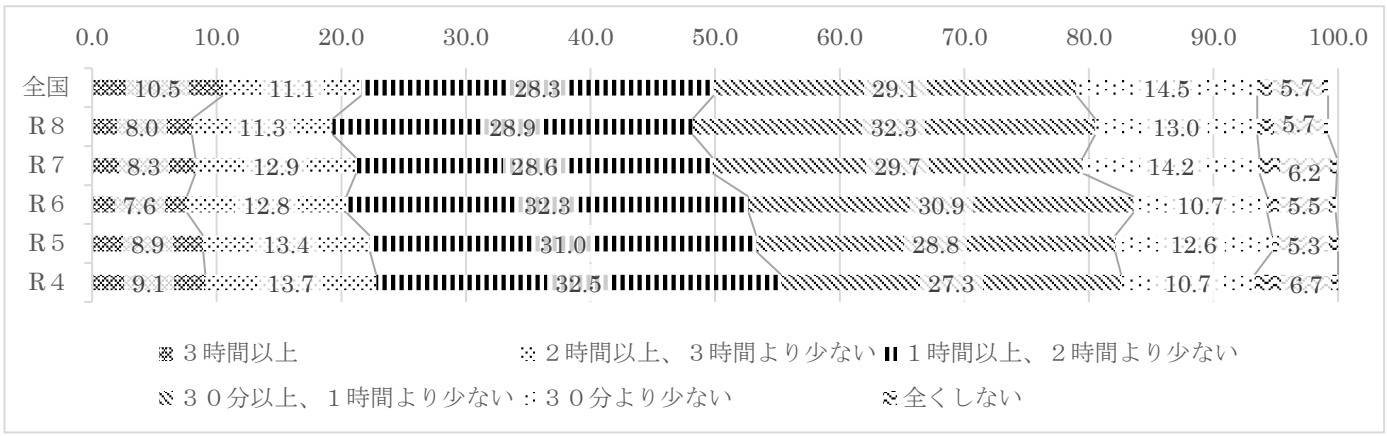


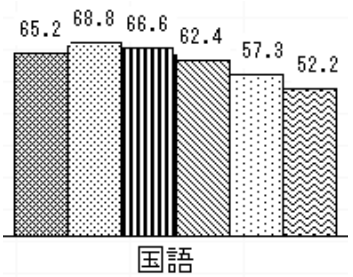
小学生は、肯定的回答割合が73.3%と、全国の79.7%を大きく下回っている。中学生は、肯定的回答割合が73.3%と、全国の81.7%を大きく下回っている。小中学生ともに、総合的な学習の時間で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使ってうまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

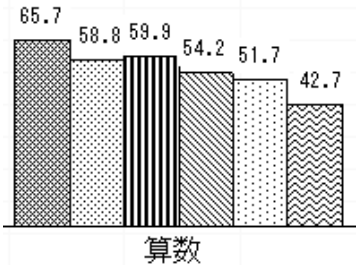
(3)家庭学習に関する取組状況

【児童生徒質問調査】（23)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

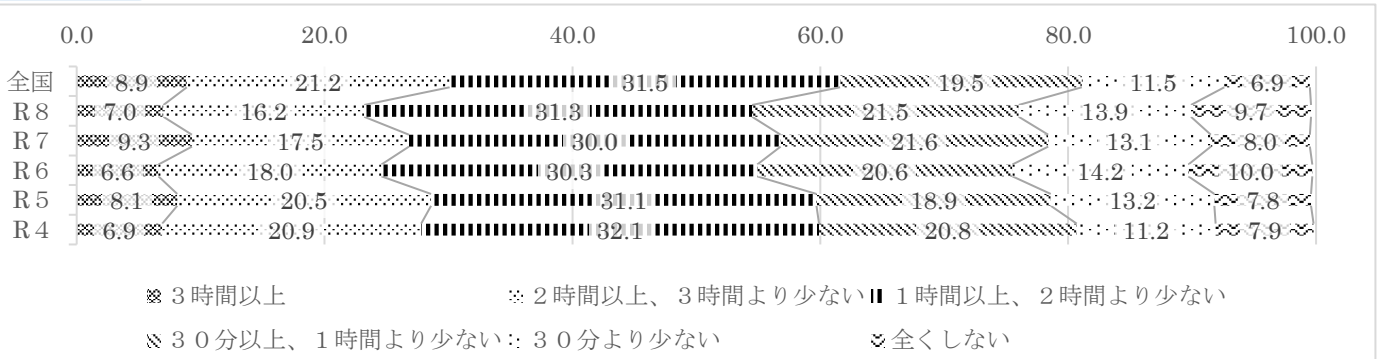
小学生

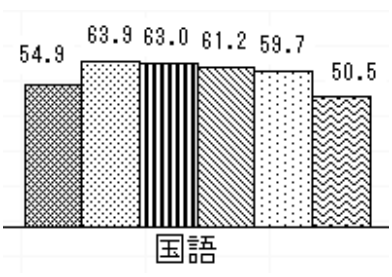


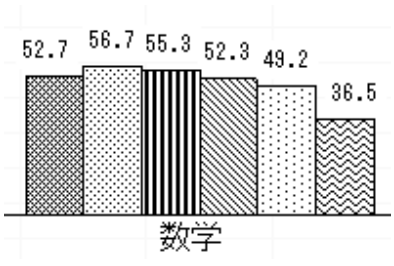


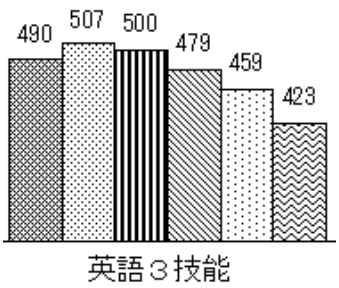


中学生





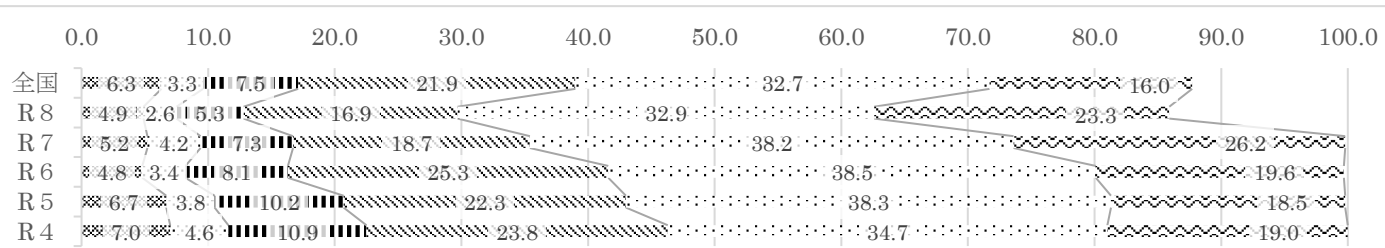


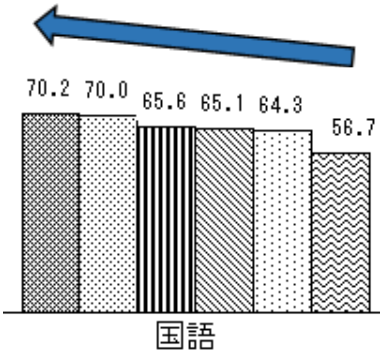


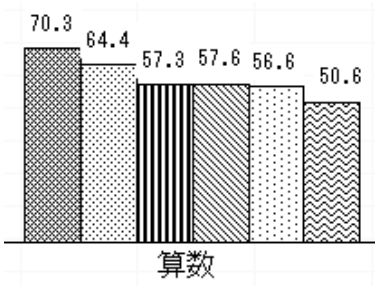
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が48.2%とR7年度の49.8%を下回り、全国の49.9%も下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が54.5%とR7年度の56.8%を下回り、全国の61.6%も大きく下回っている。小中学生ともに「1時間以上」と回答した割合が、R4年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問調査】（25）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

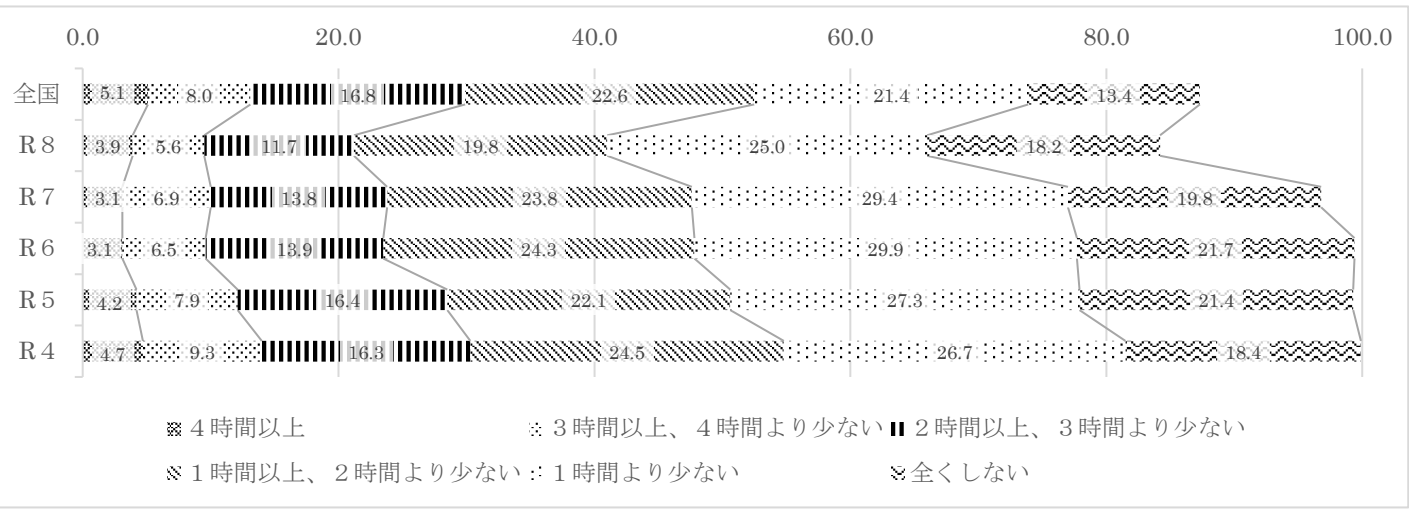
小学生

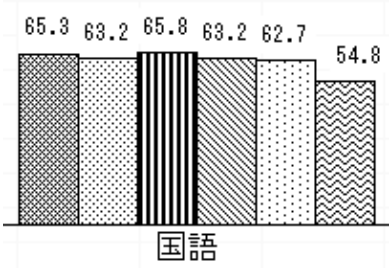


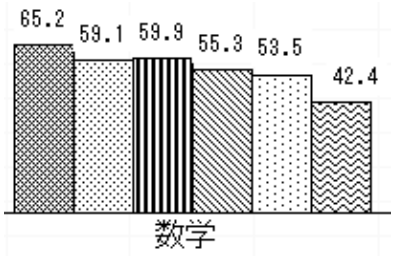


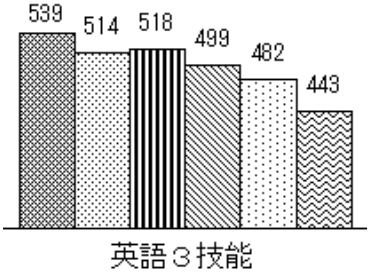


中学生







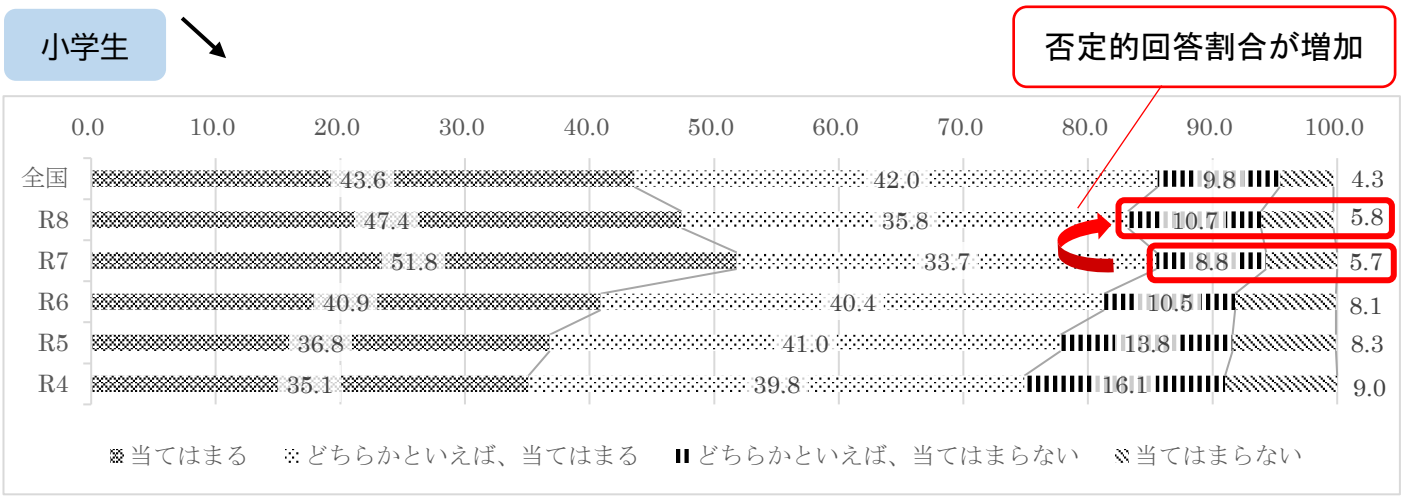


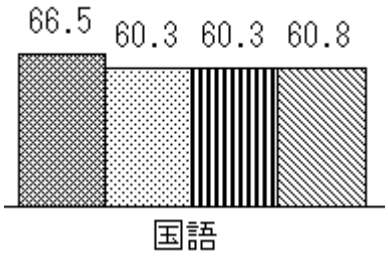
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が29.7%とR7年度の35.4%を大きく下回り、全国の39.0%も大きく下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が41.0%とR7年度の47.6%を大きく下回り、全国の52.5%も大きく下回っている。小中学生ともに「1時間以上」と回答した割合が、R4年度以降において最も低くなっている。小学生は土曜日や日曜日に1時間以上勉強している児童ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

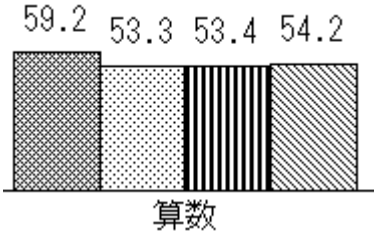
(4)非認知能力等に関する状況

【児童生徒質問調査】(8)自分には、よいところがあると思いますか

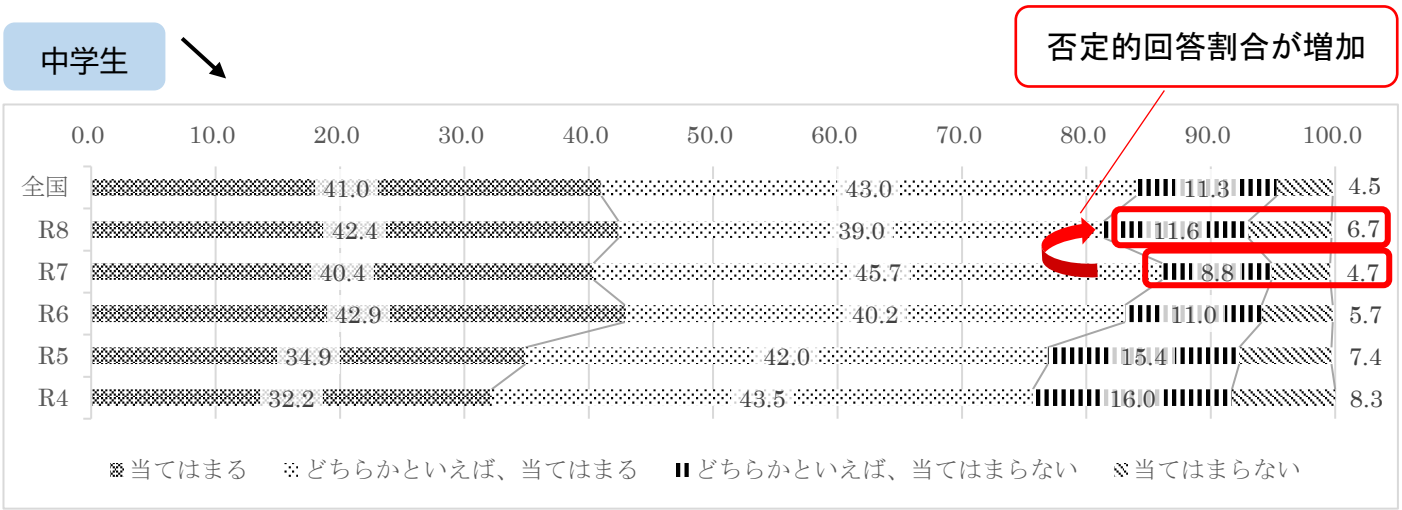
小学生 ↘

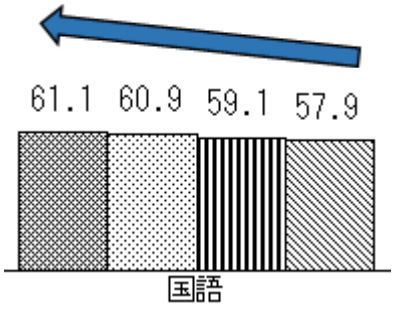


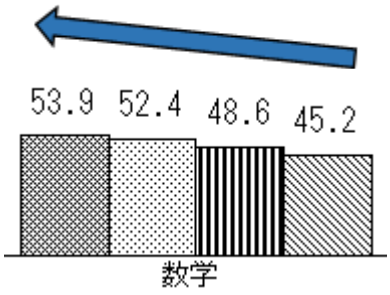


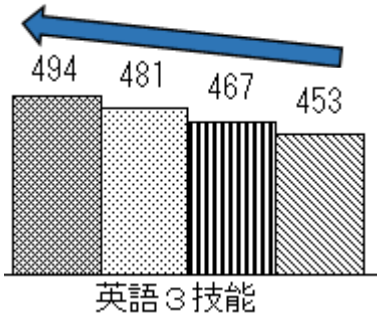


中学生 ↘





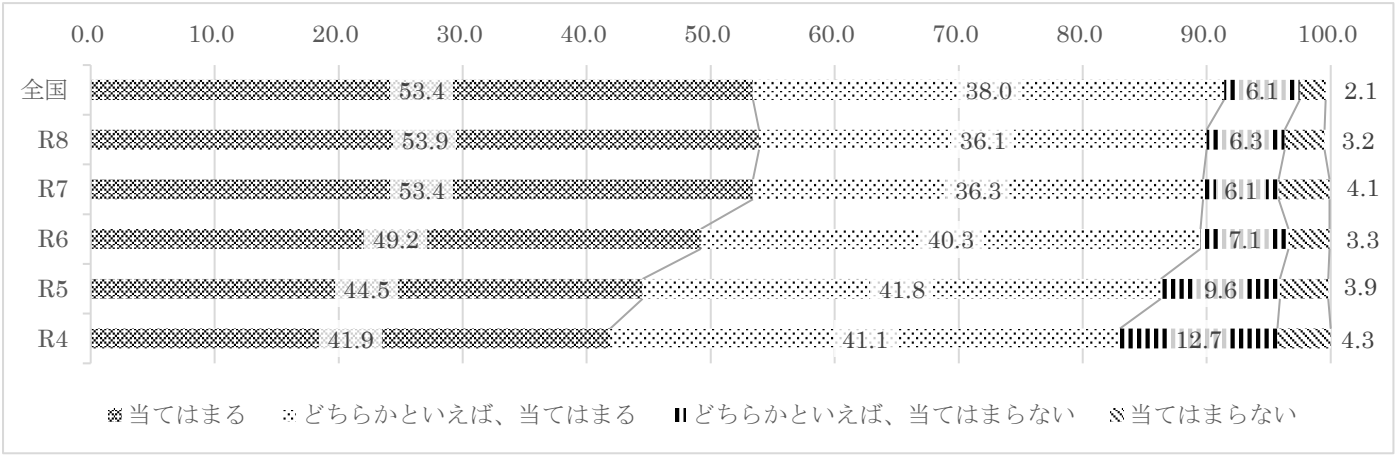


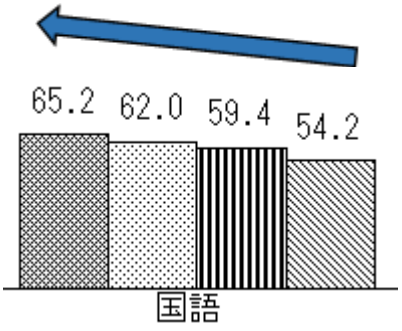


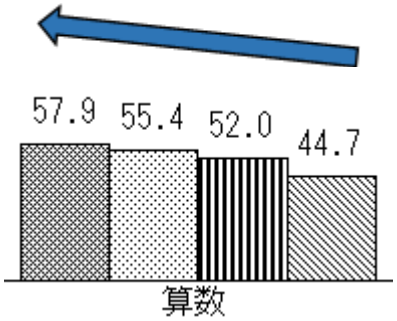
小学生は、肯定的回答割合が83.2%とR7年度の85.5%を下回り、全国の85.6%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が81.4%とR7年度の86.1%を下回り、全国の84.0%も下回っている。中学生は、自分にはよいところがあると思っている生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査】（9）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

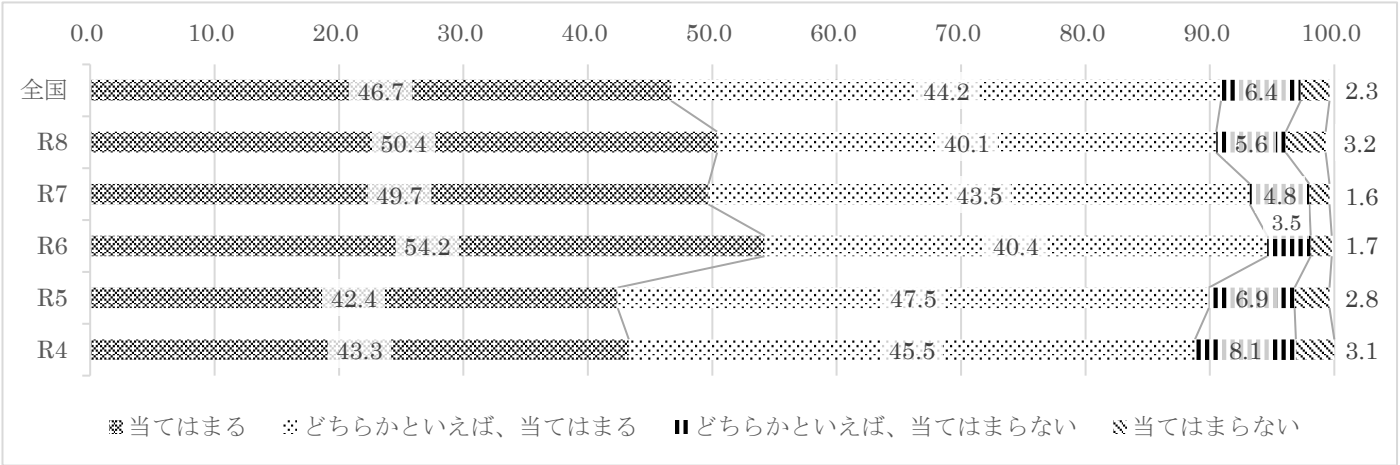
小学生

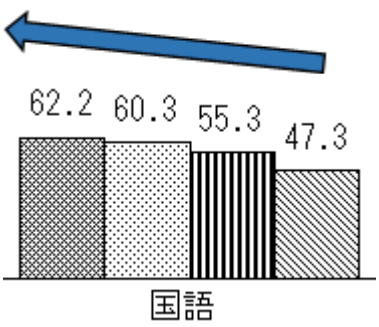


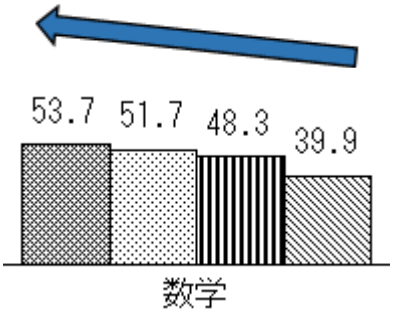


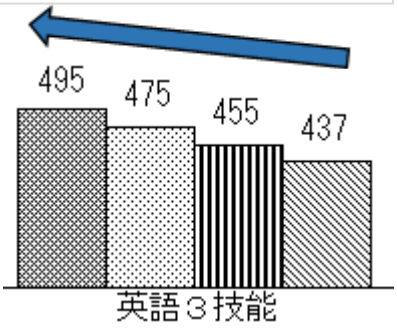


中学生





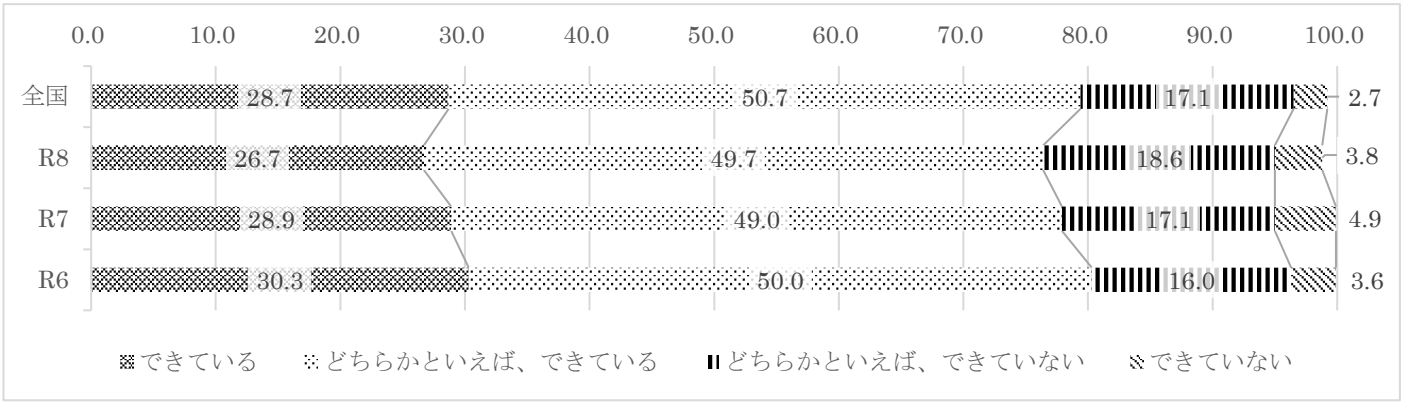


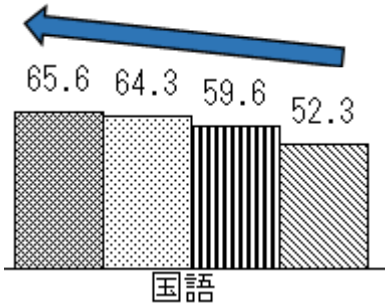


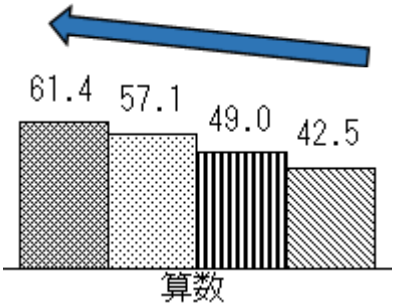
小学生は、肯定的回答割合が90.0%とR7年度の89.7%を上回っているが、全国の91.4%は下回っている。また、肯定的回答割合が、R4年度以降において最も高くなっている。中学生は、肯定的回答割合が90.5%とR7年度の93.2%を下回り、全国の90.9%も下回っている。小中学生ともに、先生が自分のよいところを認めてくれていると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査】（22)分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

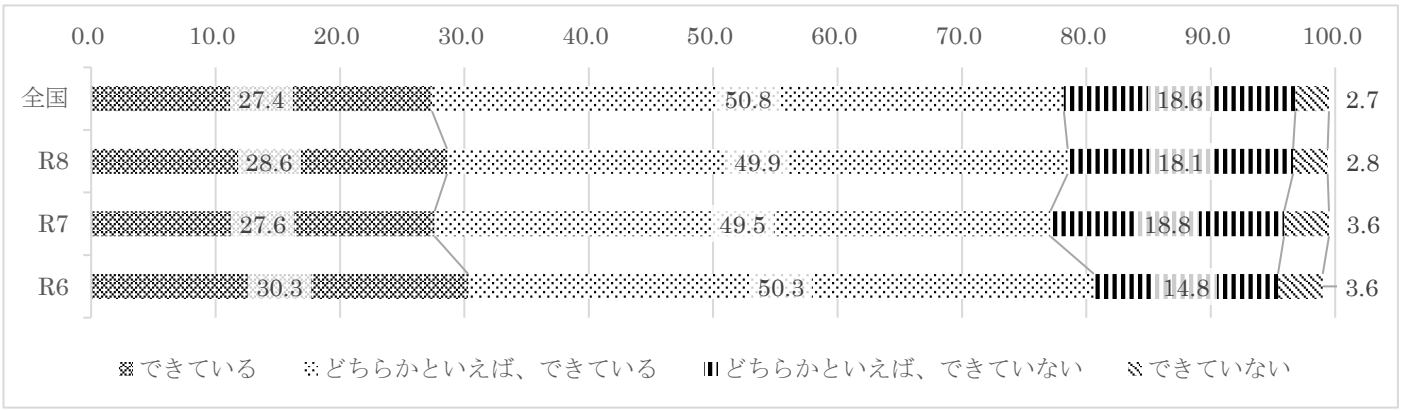
小学生 ↘ ↘

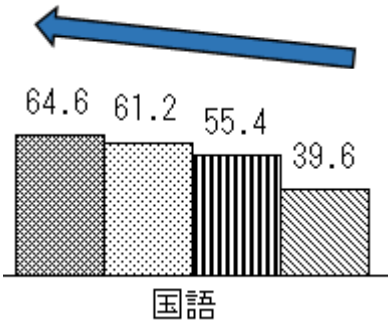


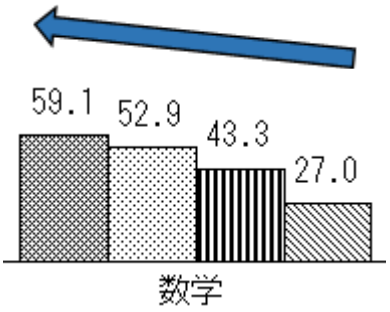


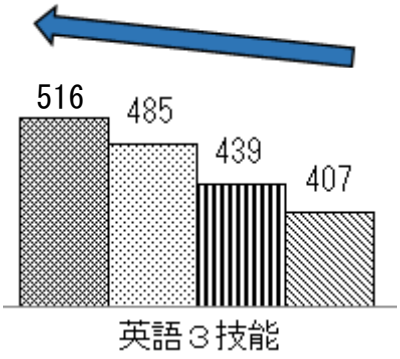


中学生 ↗









小学生は、肯定的回答割合が76.4%とR7年度の77.9%を下回り、全国の79.4%も下回っている。また、R6年度以降において最も低くなっている。中学生は、肯定的回答割合が78.5%とR7年度の77.1%を上回り、全国の78.2%も上回っている。小中学生ともに、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。